

野球部の歩み

◆創部

智辯学園高校は昭和40年4月、金剛一紀伊一吉野の山並みを見渡す景勝の地・五条市野原町417番地に創立された。藤田照清学監（現学園理事長、智辯学園奈良・和歌山両校校長）は学校創立当初から「全校生がスポーツや文化活動を通じて青春のエネルギーを燃焼させ、青春を謳歌し、智辯学園の生徒としての一体感を培ってほしい」と願っていた。野球はその願いを実現させるのにふさわしいスポーツであり、藤田学監の野球にかける情熱もひとしおだった。五條市の少年野球は20年代後半から盛んになり、県内の大会では毎年上位に名前を連ね、しばしば優勝していた。この野球好きの五條市民気質と藤田学監の野球にかける情熱とが一致して、その後の智辯学園野球の歴史が始まったのだ。しかし、当時の県高校野球界の名門校は天理・郡山・御所工業などで、甲子園を目指す五條・少年野球の選手たちもこれらの高校へ進学する者が多く、智辯学園へは開校と同時に野球好きの中学生が集まったけれども、選手層の厚みという点ではこれらの高校に及ばなかった。

野球部も他のスポーツ・クラブと同様に、40年4月に同好会としてスタートした。同年8月末に野球場（現・第1グラウンド）が完成したので9月6日に野球場開きを行うことになり、野球同好会は野球部に昇格した。この日は学園創立者で学園長の大森智辯・辯天宗宗祖をお迎えして盛大に野球場開きを行うことにし、球場開きを祝って親善試合も計画された。初めての対外試合なので少しは名前の通った学校と試合をしたいと考え、いくつかの高校野球部に「智辯学園高校です。野球場開きに当たって試合をお願いしたいのですが…」と申し込んだが、「智辯学園ってどこにあるの」といった調子で、なかなか相手にしてくれない。

「また断られた」とガッカリしながら大淀高校に電話をしたところ、「球場開きおめでとうございます。お相手しましょう」という返事。学園創立者の御宗祖は吉野町飯貝の御出身であり、吉野町は大淀高校の校区でもあるので、藤田学監や和泉野球部長にとって大淀高校野球部監督の好意は大変うれしかった。こうして初の対外試合が大淀高校野球部との間で行われ、しかも6-1で初勝利をおさめたのである。その後の智辯学園野球部の輝かしい歴史がこの時に始まり、幸先のよいスタートだった。

40年秋には県高校野球連盟に加盟し、同年秋の県大会で公式戦に初出場したが、1回戦で大字陀に0-6で敗れた。部員たちは浪商出身の山本集・初代監督の指導のもとで、早朝練習や夜間練習などの厳しい練習に耐えて頑張った。その結果41年春の県大会では1回戦で畝傍を4-1で破って公式戦の初勝利を飾った。2回戦の奈良工業（同校はこの

大会準決勝に進出)には0－3で敗れたが、その後の練習試合では、大阪の古豪・浪商に1－0で勝つなど、極めて順調な滑り出しだった。

◆試練に耐えて

その喜びもつかの間41年5月、山本監督がバットで部員をたたいたとして、新聞に「監督の暴行事件」が報道された。藤田学監は当時を思い出して「上半身から血の気が引いていくのを感じた」という。日本高校野球連盟から「41年6月3日より1年間の対外試合禁止」の処分が出た。部員たちは「甲子園でプレーをしたい」という願いから毎日苦しい練習に耐えてきたが、その夢はこの処分で吹き飛んでしまった。甲子園への夢を断たれた部員の中には「もう野球なんかやっても仕方がない」と、翌日からの練習に出てこない者も出始めた。このままでは智辯学園の野球部は潰れてしまう。藤田学監は部員一人ひとりを呼んで「今後の人生でも同じようなつらいことが起こるかも知れない。ここでくじけてどうする。試練に耐えて立ち直り、この無念を晴らそう」と説得した。その直後から学監が野球部長、和泉部長（旧姓赤松）が監督になって野球部の立て直しに取り組んだ。学監も監督も、毎日掌が腫れ上がるほどノックをして部員のやる気を引き出した。部員たちも「われわれ一期生がくじければ、智辯学園の野球部はつぶれてしまう」「この苦しみを乗り越えて野球部を再建すれば、後輩が必ず無念を晴らしてくれる」と、激しいノックに耐えて頑張った。

一方で、学監は当時の日本高校野球連盟・佐伯達夫会長に「処分後の生徒と教師、全校挙げての真剣な取り組みを見て下さい」と陳情した。その熱意に動かされた佐伯会長は、41年10月に学校を特別に視察してくれ、全校生に対して「くじけずに頑張renaさい。必ず栄光の日がやって来る」と激励してくださった。42年2月、日本高校野球連盟から「学校全体が処分の精神を理解し真剣に取り組んでいる。その態度は教育的にも高く評価できるので42年5月末までの処分を42年3月で解除する」との異例の通達が届いた。朗報は全校生に伝えられ、関係者全員が長かった苦難の9か月が終わったことを喜び合った。「さあ、やろう」。心なしか部員の練習にも一層熱がこもってきたようだ。智辯学園野球部はよみがえった。

◆再起を果たす

復帰第1戦の練習試合は、県内の古豪・御所工業が快く引き受けてくれた。部員たちはいきいきとグラウンドを駆け回り、処分期間中の屈折した思いを一気に吐き出した。復帰間もない42年春の県大会では、女子大付属に12－1（5回コールド）で圧勝。2回戦の天理（この大会準優

勝)には3-6で敗れたものの、観客からは惜しめない拍手と激励の言葉が送られた。42年夏の県大会では1回戦で女子大付属に9-0で快勝してナインの意気は上がったが、2回戦は強豪の郡山と対戦して1-6で敗れた。1期生はすでに最終学年になっており、3年間を通じてとうとう念願の甲子園出場は果せなかったが、秋の新チームに残った2期生と3期生は「われわれがきっと甲子園に出場して、先輩の無念を晴らしてみせる」と決意を固めた。智辯学園野球部にとって、昭和43年は特筆すべき年になった。春の大会で1回戦の帝塚山を15-0(7回コールド)、2回戦の吉野工業を4-2、3回戦の桜井商業を3-0、準決勝で郡山を6-1で破って決勝戦に進んだ。対戦相手は、復帰第1戦の練習試合で胸を貸してくれた御所工業だった。同校はこの大会で奈良工業を8-0、高田を10-0、天理を4-0と3試合連続完封していた。準決勝の榛原には13-3と今大会初の失点を与えたものの、投・打に優れたチームだった。決勝戦では御所工業の打線の前に2-13と完敗したが、智辯ナインは爽快だった。この試合で確かな手応えと自信をつかみ、夏の大会への夢と期待を大きくふくらませた。

◆初の甲子園出場

▽夏の県大会で初優勝

いよいよ夏の県大会が開幕した。満を持していた智辯ナインは1回戦で王寺工業を11-0(5回コールド)、2回戦の正強を4-1で破って勝ち進んだ。準々決勝で吉野を5-2で下し、準決勝の高田商業も6-1で破り「あれよ、あれよ」という間の素晴らしい連勝だった。県民からも「対外試合禁止処分に耐えてよく頑張った。智辯学園はいいチームになった」と口々に賞賛された。決勝戦は古豪の郡山との対決になった。学校創立3年目・創部から2年半で、とうとう決勝に勝ち進むチームにまで成長したのだ。

郡山はこの大会の1回戦で畝傍を2-0、2回戦で高田を1-0、準々決勝で郡山農業を1-0と3連続完封し、準決勝でも一条に5-3で勝ってきた。智辯ナインは「相手が古豪だからといって、気合い負けするな」と激しい闘志を燃やして試合に臨んだ。1回表に心配していた堅さが出てしまい2失策と4球などで1点を失った。しかし2回以降は冷静さを取り戻し、上田投手は大きく落ちるカーブと伸びのある直球で郡山の打線にヒットを許さなかった。一方、智辯打線は4回裏に4球の中和田をバントで送り、荒木・中大谷・上田の連打で3点を奪って逆転した。8回にも豊国が4球を選び、荒木と清水の連打で2点を挙げて5-1で郡山を下し、念願の県大会初優勝を果たした。例年ならこのあと紀和大会を行い優勝したチームが両県代表として甲子園に出るのだが、この年は

第50回記念大会のため、各府県大会優勝チームが甲子園出場権を手にすることが出来るという幸運もあった。うっ積したものを吐き出すように打ち・走り・守った智辯ナインが5－1の大差で勝利をものにし、念願の甲子園出場を決めたのだ。ともすれば卑屈になりそうな気持ちにムチ打ち、全員で厳しい練習に耐えぬいてきた努力が報いられた。勝利の瞬間、ナインも全校生徒・職員もドットあふれ出る涙を止めることが出来ず、その涙をぬぐおうともせずに、ただお互いに抱き合ったままだった。高校球児の念願である県大会初優勝・甲子園出場がかなった喜びと同時に、1年前までの対外試合禁止という厳しい現実を克服してきたことへの感動の涙だった。ナインを見守る藤田学監の目にも涙が光った。

県高校野球連盟が60年間の高校野球を回顧して出版した「球人」（昭和54年）には、この第50回全国高校野球選手権大会奈良大会について次のように記述されている。「智辯学園の優勝は立派だった。春の大会で準優勝しているもののまだ荒さが目立ち、各校が全力でぶつかる夏には優勝はむずかしいだろうとみられていた。ところが、その荒さはすっかり姿をけしていたばかりか、実に巧みな試合運びをした。上田投手の快投と、2年前の対外試合禁止処分を試練として養った強い精神力がものをいったようだ。とても新鋭チームとは思えない戦いぶりだった」。

橿原球場から意気揚々と帰ってきた選手たちを、五条市民や辯天宗関係者らが歓呼して出迎え心から祝福してくれた。五条市は少年野球の盛んな土地柄なのに今まで地元チームが甲子園にでは出場したことがなかっただけに、全市挙げて「甲子園出場の快挙」に酔った。街中に「祝・智辯学園甲子園出場」の懸垂幕や横断幕、中には「真紅の大優勝旗を持ち帰れ」などと威勢のよいものまで掲げられた。全校職員と生徒は毎日これを見上げながら、晴れ晴れとした顔で登下校した。一方、育友会や同窓会を中心に応援会が組織され、学校といわず市といわず、うきうきした活気に満ちあふれていた。

郡 山	1 0 0	0 0 0	0 0 0	1
智 辯 学 園	0 0 0	3 0 0	0 2 X	5

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
郡 山	0	8	2	0	1	0		3
智 辯 学 園	9	4	5	3	1	2		6

◇甲子園大会

全国高校野球選手権大会は甲子園球場と西宮球場の2か所で行われていたが、この第50回記念大会から全試合が甲子園球場で行われることになった。あこがれの甲子園が選手たちを待っている…。いよいよ第50回全国高等学校野球選手権大会が開幕した。智辯ナインの入場行進は28番目で、荒木主将・豊国副主将を先頭に堂々と胸を張り、初出場とは思えないほどの見事な行進だった。県大会の優勝旗を掲げ、一步一步、甲子園の土をしっかりと踏み締めて行進するナインの胸の中に、再び熱いものがこみあげてきた。応援団も満員の観衆の声援にすっかり興奮「いぞ、頑張れ」と声を張り上げた。

▽第1戦（2回戦）

甲子園大会では1回戦シード、2回戦で前橋工業（群馬・初出場）と対戦した。上田投手は県大会で見せた大きく落ちるカーブと伸びのある直球を軸に、前橋工業打線に散発2安打を許しただけだった。この好投に奮起した打線は4回裏、先頭の山川が中越えの安打、次打者中和田とのヒット・エンド・ランが見事に決まって1・3塁となり、豊国の死球で無死満塁の絶好機をつかんだ。このあと荒木のヒットと清水の遊ゴロ併殺の間に2点を先取した。応援団は「試合に勝った」ような興奮ぶりで抱き合い、早くも目頭を拭く者もいたほどだった。5回にも植田の3塁打を足場に山川の安打で1点を追加。6回には豊国が前橋工業・2番手の柚木投手から4球を選んで荒木の安打で1・3塁とし、柚木投手のけん制悪送球と川崎の安打で2点を奪った。上田投手の好投から考えて、ここまで来れば勝利は決まったようなもので、7回にも山川と豊国が重盗して1点を上げ止めをさした。上田の好投と打線の活躍、敵失などで第1戦は6－0の完封勝利。ナインもスタンドの応援団も甲子園での初勝利に「頭がボーっとなった」ほどの感激を味わった。応援団はバスで五条市へ帰る間中、選手一人一人の活躍ぶりを手振り身振りを交えて話し合った。全員が評論家になって、話題はいつまでも尽きなかった。これこそが藤田学監が願っていた「全員野球」であり、全校生徒や教職員だけでなく地域社会の人たちまで巻き込んで、一丸となって勝ち取った「甲子園の1勝」だった。1年半前までの「対外試合禁止」の重圧の中で耐えに耐え、しのびにしのんで練習に打ち込んで来た成果だっただけに、全員の喜びはひとしおだった。

前橋工業	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0
智辯学園	0 0 0	2 1 2	1 0 X	6

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
前橋工業	2	4	3	1	0	3		4
智辯学園	9	5	4	3	0	0		5

メンバー

部長 藤田 照清
 監督 和泉 健守
 (投) 上田 容三
 (捕) 中大谷博志
 (一) 荒木 賢司
 (二) 中和田啓文
 (三) 山川 雅一
 (遊) 清水 正澄
 (左) 川崎 賢蔵
 (中) 豊国 利一
 (右) 早川 正宏

有馬 賢治
 宮本 正章
 岡崎 哲也
 猿渡 竜雄
 森下 弘明

▽第2戦(3回戦)

3回戦は秋田市立との対戦で、「これに勝てばベスト8」入りだ。ナインも応援団もその夢が実現することを祈り信じた。1回表、先頭の山川・つづく中和田・豊国が秋田市立・鎌田投手の荒れ球をよく選び、連続4球で出塁してチャンスを広げた。無死満塁の好機に、荒木が内野安打を放ってまず1点。ここで秋田市立は思い切りよく鎌田から高橋へ継投したが、5番・清水は高橋投手の球を中前に痛打して1点を追加し、なお1死満塁のチャンスが続いたがスクイズ失敗などで結局2点止りだった。その後も5・6・7回にもチャンスがあったが、立ち直った秋田市立・高橋の好投の前に、得点を上げることが出来なかった。しかも上田投手はいまひとつ調子が出ず、得意のカーブを秋田市立打線に狙い打ちされ、4回と7回に本塁打を含む長短打を浴びた。守備陣もこれに動揺し、7回には相手得点に結びつく手痛いエラーも出て敗れ、ベスト8進出を果たせなかった。

しかし創部2年半で、苦しい試練を乗り越えての甲子園初出場。しかも3回戦まで勝ち残るという快挙をやってのけたナインに、甲子園の大観衆・奈良県民や五條市民から惜しめない拍手が送られた。この大会の活躍は学園の球史にとって輝かしい第1頁となった。その蔭では、選手の上の身に悲しい出来事もあった。甲子園での2試合を投げ、そのうち

1 試合を完封勝利で飾った上田投手は春の合宿中に母親をなくし、その哀しみを乗り越えて毎日の練習に励んでの勝利だった。母の思い出の写真を、背番号の中に縫い付けて甲子園に出場していた。母へのせめてもの恩返しであり、母と二人で投げ抜いたのだった。

智 辯 学 園	2 0 0	0 0 0	0 0 0	2
秋 田 市 立	0 0 0	3 0 0	4 0 X	7

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	7	3	4	0	2	2		8
秋 田 市 立	12	4	7	3	1	2		11

メンバー

部長 藤田 照清
 監督 和泉 健守
 (投) 上田 容三
 (捕) 中大谷博志
 (一) 荒木 賢司
 (二) 中和田啓文
 (三) 山川 雅一
 (遊) 清水 正澄
 (左) 川崎 賢蔵
 (中) 豊国 利一
 (右) 早川 正宏

打 有馬 賢治
 打 宮本 正章
 岡崎 哲也
 猿渡 竜雄
 森下 弘明

▽高嶋監督の就任

その後はやや沈滞気味だったが、45年4月に高嶋仁監督が就任して、選手たちに新たな活力を導入することになった。高嶋監督は長崎海星高校在学中に2回甲子園に出場、その後日体大で活躍した実績を持つ。就任以来の厳しい特訓は部員の間で語り種になっているほどで、その甲斐あって45年秋の県大会では決勝リーグに勝ち残って第3位。46年春の県大会でも決勝戦まで勝ち進み、郡山に2-3で敗れたものの着実に実力を付けて来たことが伺え、近畿大会でもPL学園を相手に9-10と善戦した。47年春にも決勝戦で天理を7-2で敗り、近畿大会でも準々決勝で立命館に4-1で勝ち、準決勝でも近大付属を6-5で破り、決

勝戦では滝川を9－8で下して近畿大会初優勝を果たした。しかしその後の県大会では宿敵・天理が智辯の前に大きく立ち上がり、甲子園出場に結びつく優勝にはなかなか手が届かなかった。

◆第48回選抜高校野球大会（51年春）

昭和51年2月、学園の全教職員・生徒が待ち望んでいた日がついにやって来た。選抜高校野球大会出場が決まったのだ。学園球児たちの夢・甲子園出場は43年夏の第50回全国高校野球選手権大会以来8年ぶり、春の選抜は今回が初出場だ。智辯ナインは50年秋の近畿大会準々決勝で村野工業を3－0で破ったが、準決勝では北陽に3－6で敗れた。2月1日が迫るにつれて「ベスト4に残れなかったことが、選抜出場にどう影響するか」が学園全員の心配の種だった。いよいよ当日、選抜野球選考委員会は「智辯は北陽に対して善戦、その北陽が決勝戦にまで進んだことから見ても、智辯はベスト4に近い実力を持っている」と評価し、天理とともに選抜出場が決定したのだ。

部員はもとより全校生徒や教職員・同窓会員や野球部OBらの喜びは大きく、学校にかけつけたり電話でお祝をいってくれたりした。地元五条市民や奈良県民の期待も大きく、学校の事務局には「頑張れよ」の激励電話がひっきりなしに掛かって応接に追われるほどだった。町のいたる所に「祝・甲子園出場」の横断幕や懸垂幕が飾られ、華やいだ空気が満ち満ちた。ナインは五条市の壮行会に招待されて盛んな激励を受けたあと、学校創立者・御宗祖の御廟に参拝して「必勝」を祈願した。

▽第1戦

抽選の結果、第1戦の相手は北海道代表・札幌商業と決まった。札幌商業は雪国のハンデを克服、コントロールのよい野城投手を中心に「よくまとまったチーム」という前評判だった。だが、智辯ナインも左腕の好投手・阪本、右の本格派・山口両投手を軸に守備は万全で、機動力は伝統的に素晴らしいものを持ち、課題だった打線も上向いている。ナインの「勝てる」という自信、応援団の「勝ってくれるに違いない」という期待が高まるなか、試合開始のサイレンが高らかに鳴り響いた。

前評判どおり、智辯・阪本と札幌・野城両投手の好投で息詰まるような投手戦となった。智辯は前半から中盤にかけて押しぎみに試合を進めながら得点できなかった。しかし、そのいらいを吹き飛ばすように、7回表にチャンスが訪れた。松本の右越え2塁打を足掛かりに、阪本・中葉・熱田らが長短打を浴びせて3点を先取した。応援団はそれまでのモヤモヤした気分を一気に晴らし、喜びを爆発させた。9回にも相手エラーに付け込んで2点を奪って試合を決めた。阪本投手は左腕からの鋭

いシュートと落ちるカーブをビシビシ決め、札幌商業の全員から12個の三振を奪った。これは第42回選抜大会（昭和45年）の高松商業・大北投手以来という快記録だったし、被安打は散発の4本だけという見事な完封試合だった。

智 辯 学 園	0 0 0	0 0 0	3 0 2	5
札 幌 商 業	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	13	3	1	2	3	0	0	8
札 幌 商 業	4	12	2	0	0	3	3	4

メンバー

部長 和泉 健守
監督 高嶋 仁
(投) 阪本 正行
(捕) 大石 雅彦
(一) 松村 泰行
(二) 熱田 勉
(三) 米田 保伸
(遊) 中葉伸二郎
(左) 宮崎 篤
(中) 松本 武士
(右) 西村 正司

打・一 山口 哲治
沢村 寛治
前中 隆史
上村 恭生
坂本 正文

▽第2戦

2回戦の相手は愛知代表・岡崎工業。1回戦で阪本が好投、完封試合をやったのけただけに、ナインの意気は上がっていた。ところが、阪本は故障でマウンドに立てず、代わって、この日のために満を持していた山口が登板した。試合後、岡崎工業の大見監督は「1回戦で好投をした阪本投手が登板するものと信じて研究し、対策を立てていたところへ山口君の登板だった。これではいかんと攻め方を変えてみたが、山口君の速球にやられてしまった」と話した。確かに山口の先発は計算外だったろうし、その山口が好投して打線も火を噴いた。

1 回表の攻撃は見事だった。岡崎工業・山内の立ち上がりを攻め、1 番米田に始まって2 番熱田・3 番宮崎・4 番松村・5 番松本と続く上位打線が、4 安打と敵失をからめた猛攻を仕掛け「あれよ、あれよ」という間に3 点を奪った。7 回にも貴重な駄目押しの1 点を加えて第2 戦もものにしたのだった。守っては山口がカーブと重いシュートを武器に、粘り強い投球を見せた。山口は8 回、やや疲れが出て3 点を失ったものの打線の援護で勝った。

智 辯 学 園	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4
岡 崎 工 業	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	10	0	0	0	2	0	1	7
岡 崎 工 業	7	6	1	0	2	2	1	4

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 山口 哲治
 (捕) 大石 雅彦
 (一) 松村 泰行
 (二) 熱田 勉
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 宮崎 篤
 (中) 松本 武士
 (右) 西村 正司

阪本 正行
 沢村 寛治
 前中 隆史
 上村 恭生
 坂本 正文

▽第3 戦

準々決勝は、大会屈指の好投手・松本正志を擁して今大会のダークホースと見られる東洋大姫路との対戦になった。立ち上がりが不安定だった山口は1 回裏、東洋大姫路・弓岡のセーフティーバントと2 盗にペースを乱された。このあと4 球と3 塁打がつづいて、バックもやや浮き足だちエラーを出してこの回一挙に3 点を失った。しかし智辯打線も3 回表、持ち前の根性を見せた。二死後米田・熱田が連続4 球を選び、宮崎のタ

イムリーで2点を返してその差1点と迫った。山口はその後も投球にいまひとつ力強さと伸びがなく、3回裏の途中から阪本にマウンドを譲った。その阪本も東洋大姫路の打線をかわすことができず、この回にも3点、5回にも2点を失って大勢が決まった。山口・阪本両投手の不調…。思っても見なかった出来事に、大応援団がぼうぜんと息をのむシーンがしばしばあった。智辯は6回表に1点返したものの、その裏2点を失い、東洋大姫路の圧倒的な攻撃の前に3-11の大差で敗れた。

智 辯 学 園	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3
東洋大姫路	3	0	3	0	2	2	1	0	X	11

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	4	6	8	0	0	3	0	5
東洋大姫路	10	4	6	4	3	0	3	9

メンバー

部長	和泉	健守
監督	高嶋	仁
右（投）一	山口	哲治
（捕）	大石	雅彦
（一）	松村	泰行
（二）	熱田	勉
（三）	米田	保伸
（遊）	中葉	伸二郎
（左）	宮崎	篤
（中）	松本	武士
（右）	西村	正司
投	阪本	正行
捕	前中	隆史
二	沢村	寛治
右	坂本	正文
打	上村	恭生

◆第49回選抜高校野球大会（昭和52年春）

51年夏の県大会決勝戦では天理と1-1で引き分け、再試合の結果0-2で無念の涙をのんだ。ナインは秋の県大会に希望をつないで練習に汗を流し、秋の大会で天理を4-2で破って近畿大会に出場した。準々決勝では県和歌山商業に6-0で完封勝ちし、準決勝で滝川に敗れたもののこの健闘が評価されて52年春の選抜高校野球大会出場が決まった。

「2年連続の選抜高校野球大会出場おめでとう。去年の東洋大姫路戦の屈辱を晴らしてくれ…」。県下の高校野球ファンは、口々に祝福・激励してくれた。智辯学園卒業者はもちろん奈良県出身で京阪神や関東地方に住む人達からも、学校へ「鼻が高い」「奈良県五条市といっても知らないが多いのに、智辯学園出身というだけで分かってくれた」など、誇らしげに電話をかけて来てくれた。学校関係者らは、今更ながら「甲子園出場」が持つ意味の大きさを知らされた。

▽第1戦

抽選の結果、1回戦は強豪・土浦日大（茨城県）と決まった。会場でマスコミの取材を受けた中葉主将は「敵は優勝候補。初めはえらいところと当たった…と思った。しかし、やるべきことはやり尽くしたし、第1戦を決勝戦と思って、ぶち当たるだけだ」と力強く決意を述べた。智辯のエース・山口が長身の剛速球投手であるのに対して、土浦日大の入江投手は小柄でバネのを生かした「うまい投球」をする。打線もお互いに活発で甲乙つけがたいとあって、1回戦の中では最も注目されるカードになった。1・2回は山口・入江両投手の互角の投げ合いで0-0の緊迫した状態が続いたが、その緊張感を打ち破ったのは智辯。3回表、4球で出た上村（61年から監督）が、すかさず2盗に成功し、続く米田のヒットで生還し1点を挙げて先制した。土浦日大も4回裏に1点を返して同点になったが、智辯は6回に1点を追加して再びリード。土浦日大も7回に1点を返して再び同点とするなど、追いつ追われつの息詰まるような熱戦を展開した。智辯・山口、土浦日大・入江両投手は予想どおりよく投げ、見ごたえのある好試合だったが、智辯はミートに徹した打法と、チャンスをものにする強い精神力を見せつけた。8回表に米田が4球で出て次打者山口の3ゴロの間に2進したあと坂本の左前打で生還、この試合3回目のリードを奪った。9回にも1点を追加して試合を決め、山口投手も立ち直って土浦日大を抑え、第1戦をものにした。

智 辯 学 園	0 0 1	0 0 1	0 1 1	4
土 浦 日 大	0 0 0	1 0 0	1 0 0	2

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智辯学園	9	1	3	2	2	2	0	7
土浦日大	4	4	3	0	3	0	1	6

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 山口 哲治
 (捕) 前田 真孝
 (一) 岸田 光司
 (二) 上村 恭生
 (三) 米田 安伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜
 (右) 坂口 智裕

辻山 正明
 西川 一人
 山田 哲也
 高垣 春行
 出井 裕

▽第2戦

2回戦の相手校は、強豪がひしめく千葉県の代表・銚子商業だ。あいにくの雨で試合は2日間延びたが、智辯ナインは上々の調整ぶりだった。銚子商業の1回戦の戦いぶりをビデオで観戦して戦力分析を行った。山口投手は”黒潮打線”といわれる銚子商業の各打者の弱点、攻撃パターンなどを調べた。中葉主将らは銚子・宮崎投手の攻略について研究し尽くした。前評判の高かった土浦日大を1回戦で破ったことによって、ナインは自信を深めていた。「さあ、いつでも来い」と、気力はいよいよ充実していた。

智辯は1回表、中葉が4球のあとバント・バントで銚子・宮崎投手の立ち上がりをやさぶり、この回早くも無死満塁のチャンスをつかんだが、後続の打者が簡単に打って出て凡退を繰り返し、とうとう得点できなかった。2回にも一死2塁の好機を逃した。押しぎみに試合を進めながらチャンスに一発が出なかったため選手の焦りが心配され、応援団も欲求不満ぎみの戦況が続いた。3回表二死ながら2塁に米田を置いて、バッターは山口。見事に捕らえた打球はぐんぐん伸びて左翼スタンドに飛び込み、2点をたたき出した。打った瞬間にホームランと分かる打球だった。右手を高く掲げ、ガッツポーズでダイヤモンドを1周する山口に、応援団は総立ちで拍手を送った。銚子商業はここで宮崎投手から神原投

手にスイッチしたが、智辯はその後も押しぎみに試合を進め、8回にも連打とスクイズバントで、さらに2点を追加して勝利を確実にした。

山口は8回裏に味方の失策から1点を失ったものの、球威のある速球で、前評判の高かった”黒潮打線”の銚子を完全に抑えた。打っては決勝点となった打点をたたき出すなど、投打にわたってすばらしい活躍を見せた。智辯打線は銚子商業・黒潮打線のお株を奪う好調さで、銚子・宮崎投手に11安打の猛攻を浴びせた。この勝利で、智辯は43年夏・51年春に続いて、甲子園で3回目の「3回戦出場」を果たし、ベスト8に勝ち進んだ。

智 辯 学 園	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
銚 子 商 業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	11	0	3	5	1	1	0	9
銚 子 商 業	6	4	1	0	1	0	2	7

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 山口 哲治
 (捕) 前田 真孝
 (一) 岸田 光司
 (二) 上村 恭生
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉 伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜
 (右) 坂口 智裕

辻山 正明
 西川 一人
 山田 哲也
 高垣 春行
 出井 裕

▽第3戦

勢いに乗った智辯は、甲子園常連・東京代表の早稲田実業と対戦した。剛速球の山口投手を擁し、シャープな打線と機動力を誇る智辯への評価は甲子園での一勝ごとに高まっていた。しかし3回戦の相手は甲子園を知り尽くした早稲田実業だ。新聞のスポーツ欄は「山口の剛速球とシュート・カーブに対し、早稲田実業の打線が突破口を開けるか。やや粗い智

辯の打線が早稲田実業・弓田の絶妙の投球を打ち崩すかー」と、大きな活字で報じた。

山口は立ち上がりやや単調なピッチングだった。2回表には走者2人を出して、弓田の遊越え2塁打で2点を先取された。1戦ごとに数が増えてアルプスを埋め尽くした応援団は山口の右腕に期待していただけに「えーっ」「どうなってるの」と信じられない様子。リードされた3回、中葉の安打と上村の死球で無死1・2塁の好機を迎え、このチャンスに、打棒好調の山口が右中間2塁打して同点に追いついた。この回さらに敵失もあって1点を加え、あっという間に逆転した。こうなると山口投手も立ち直って、持ち前の剛速球とシュート・カーブがますます冴えを見せた。智辯は7回にも1点を追加、強豪の早稲田実業を振り切ってベスト4に進出した。新聞は「東の横綱・早実、姿消す」と報じ、智辯の躍進を讃えた。智辯にとっては春・夏を通じて初の4強入りだった。おまけに山口投手は地元五条中学の出身とあって、地元はもちろん卒業生や父兄・県民らが初のベスト4進出を喜び合い、「この調子で行けば、紫紺の優勝旗は手の届くところにある」ことを実感した。どこへ行っても智辯学園の活躍の話で持ち切りだった。

早稲田実業	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
智 辯 学 園	0	0	3	0	0	0	1	0	X	4

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
早稲田実業	6	6	2	0	2	1	0	5
智 辯 学 園	6	1	4	0	3	0	1	6

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 山口 哲治
 (捕) 前田 真孝
 (一) 岸田 光司
 (二) 上村 恭生
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜

(右) 坂口 智裕
 辻山 正明
 西川 一人
 山田 哲也
 高垣 春行
 出井 裕

▽準決勝

対戦相手の箕島は、甲子園の常連で優勝経験もある伝統校だ。しかし、智辯は前年夏の練習試合で箕島・東投手を打ち込み、4－1で勝っている。その東投手が今大会でも先発してくる。智辯ナインは「今回も、いただこう」と意気盛んだった。この日、智辯の地元・五条市内では試合前から、商店街の人通りがすっかりとだえた。期待の準決勝戦をテレビ観戦するためだ。どの家庭でも、家族がボリュームをいっばいに上げたテレビの画面を食い入るように見つめ、画面に向かって声援を送った。

2回裏、山口は箕島に長短3連打されて1点を失ったが、3回表にはチャンスが巡ってきた。前田が4球と箕島・東投手の暴投で無死2塁へ。さらに送りバントで3塁に進んだが、スクイズを外されて同点の好機を逃した。5回にも1死後、坂口が2塁打で出塁したが、後続の打者は凡退してしまった。こうなると、ナインに焦りが出てくる。9回にもヒットの辻山を3塁まで進めたものの、焦った辻山は次打者の中飛で本塁をつきアウト。智辯打線はチャンスを逃した上に、箕島・東投手の好投の前に2安打だけで沈黙してしまった。一方、智辯の頼みの綱・山口投手は甲子園出場前に傷めていた肩が連投の疲れもあって悪化した。新聞のスポーツ記者は「肩をかばったためか、フォームが乱れて球威も制球もいまひとつだった」と評した。その山口は試合巧者の箕島打線に捕まり、ミート打法で2回と6回に1点ずつを失った。味方打線が不発だったこともあって完封負けだった。試合後、高嶋監督は「あれ（昨年夏の練習試合での勝利）が悪い方に出た。詰めが甘く、選手の緊張感が途切れてしまったようだった」と悔やんだ。だが選手たちは本当によく戦った。1回戦から強豪ばかりを相手に戦ってベスト4入りした成績が、ナインの健闘を物語っている。春の甲子園の熱い戦いは終わった。夏の大会が待っている。

智 辯 学 園	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箕 島	0	1	0	0	0	1	0	0	X

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	2	4	2	0	1	1	2	2
箕 島	8	3	1	0	2	1	1	5

メンバー

部長	和泉	健守		
監督	高嶋	仁		
(投)	山口	哲治		
(捕)	前田	真孝		
(一)	岸田	光司		
(二)	上村	恭生		
(三)	米田	保伸		
(遊)	中葉伸	二郎	西川	一人
(左)	坂本	正文	山田	哲也
(中)	桜井	英喜	高垣	春行
(右)	坂口	智裕	出井	裕
打	辻山	正明		

◆ 5 2 年夏の選手権 (第 5 9 回)

▽県大会

1 回戦はシード。2 回戦は王寺工業を 9 - 0 (7 回コールド) で下し、3 回戦でも吉野工業を 9 - 0 (5 回コールド) で破って準々決勝へ。準々決勝は宿敵・天理との対戦となったが、3 - 0 でシャットアウトした。勢いに乗って準決勝の高田戦も 3 - 0 と快勝。決勝戦でも、桜井に 11 - 0 で圧勝するなど全試合完封という快記録で優勝し、奈良・和歌山両県の代表を決める紀和大会に臨んだ。紀和大会は、奈良・和歌山両県の高校野球大会の出場校が少ないために他府県とのバランスを取るために行われていた。しかし奈良県チームが勝って甲子園に出れば和歌山の県民にはなじみが少なく、反対の場合も同様なので、1 県・1 校を建前としてこの年を最後に永い歴史の幕を閉じた。両県高校野球関係者にとっては、紀和大会で甲子園を前にして無念の涙をのんだり歓喜を味わったりした思い出があるだけに、最後の紀和大会は感慨もひとしおのようだった。

▽紀和大会

7 月 3 0 日の和歌山県営紀三井寺球場は、最後の紀和大会とあって超満員の大観衆で埋まった。対戦相手は和歌山代表の田辺。山口は予想通りの好投で田辺の打線を 4 安打・1 点に抑えた。これにこたえて、打線は田辺・木下投手から 4 点を奪って優勝、9 年ぶり 2 度目の「夏の甲子園出場」を決めた。紀和大会で優勝したナインは高嶋監督に率いられ、優勝旗を先頭に和歌山市冬野の高台にある根美山を訪れた。智辯学園は和歌山県から招請されて和歌山市に進出することになり、紀三井寺球場

近くの根美山で和歌山中学・高等学校の造成工事が行われており、53年4月に開校の予定なのだ。ナインは優勝旗を誇らしく掲げて造成地の周囲を1周、「間もなく誕生する和歌山校の野球部よ、我々に続けてくれ」との願いを託したのだった。智辯学園野球部は春の第49回選抜高校野球大会で準決勝まで勝ち進んでいただけに、紀和大会の優勝は誰もが予想していた通りの結果だった。五條市へ凱旋したナインに対して、市民からは「夏も頑張ってくれ」「今度こそ、金剛山越えて真紅の大優勝旗を持ち帰ってくれ…」という熱い期待が高まって行った。

田 辺	1 0 0	0 0 0	0 0 0	1
智 辯 学 園	0 0 0	2 2 0	0 0 X	4

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
田 辺	4	7	0	0	1	4	0	3
智 辯 学 園	5	9	2	1	2	0	1	3

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 山口 哲治
 (捕) 前田 真孝
 (一) 辻山 正明
 (二) 上村 恭生
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜
 (右) 坂口 智裕

岸田 光司
 西川 一人
 山田 哲也
 出井 裕
 谷川 靖

◇甲子園大会

▽第1戦

大会前、各新聞は「今大会出場投手の中では、東洋大姫路の松本と星陵の小松が左右の双璧。次いで力があるのは智辯学園の山口、今治西の三谷」と紹介していた。抽選の結果、智辯は第1日第3試合で剛速球投手・小松を擁する星陵と対戦することになった。組み合わせが発表されると、抽選会場全体から思わず「ホーッ」というため息にも似たどよめ

きと「山口と小松の投げ合いだ」「初戦から優勝戦並みの好試合」などというささやきが起こった。山口も小松も同じように剛速球投手として全国に知られており、壮絶な投手戦が予想される好カードだ。どちらのチームが相手投手を打ち崩すか…、全国の高校野球ファンが注目する1戦になった。相手として不足はない。中葉主将は試合前、取材の新聞記者に「手ごわい相手だが、先制してペースをつかみ、気迫で圧倒したい」と気力をみなぎらせて話した。これは中葉主将だけでなく、全選手が武者ぶるいするような気持ちになっていたのだ。試合当日の朝、和泉部長はいつものような笑顔で選手たちに「試合に勝って、今夜の辯天宗の花火大会をゆっくり見物しようや」と声をかけ、はやる気分をリラックスさせた。その効果は試合で現れた。

先攻を取った智辯は1回表から小松を攻め立てた。先頭の中葉が4球で出塁、坂本送りバント成功のあと、坂口が右前安打で1点を先制。2回表にも、桜井の左中間3塁打と岸田の中前打で1点を加え、試合を有利に運んだ。しかし小松もさすがに好投手。3回以後は立ち直って要所を締め、計8安打を浴びながらも智辯の強力打線に2点しか与えなかった。一方、山口は期待通りシュートの切れがよく、小松を中心とした星陵打線を4安打に抑えた。星陵4回の1点は、智辯守備陣のエラーがからんだ失点だった。期待どおりの両投手の投げ合いだったが、ついに山口が小松に投げ勝ったのだ。試合後、星陵・山下監督が「山口の球は重く、ピッチングもうまかった」と褒めるほどの好投だった。スポーツ紙も全国紙のスポーツ欄も、トップ見出しで智辯の勝利を讃えた。

智 辯 学 園	1	1	0	0	0	0	0	0	2
星 陵	0	0	0	1	0	0	0	0	1

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	8	6	3	1	3	1	0	7
星 陵	4	7	3	2	1	0	0	6

メンバー

部長 和泉 健守
監督 高嶋 仁
（投） 山口 哲治
（捕） 前田 真孝
（一） 岸田 光司

(二) 上村 恭生
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜
 (右) 坂口 智裕

辻山 正明
 西川 一人
 山田 哲也
 出井 裕
 谷川 靖

▽第2戦

対戦校は埼玉代表・初出場の川口工業と決まった。技巧派の浅沼投手を軸に、機動力と守備のチーム。智辯ナインは前評判の高かった星陵・小松投手に打ち勝った自信から「早く次の試合をしたい」「試合が待ち遠しい」と意気軒昂で、和泉部長や高嶋監督らは意気込む選手の手綱を引き締めるのに気がつかった。2回表、2死3塁で桜井の打球は3塁線上を転がり、この間に走者がホームをついて早くも1点先制か…と思われた。応援団も「やった」と大喚声を上げたが、打球はファウルと判定されたため得点を逸した。川口工業の3塁手・上野の好判断だった。智辯は序盤にチャンスを作り、押し気味に試合を進めながらもなかなか得点出来なかった。ところが4回表まで好守備を誇っていた川口工業の内野陣に乱れが生じた。智辯は敵失で1点を取ったあと、前田・桜井の連続3塁打で2点を追加して押し寄せムードになった。5回には辻山の走者一掃の3塁打など6長短打で一挙7点を奪い、6回にも駄目押しの2点を追加して12-0と大勝した。山口は鋭いシュートで川口工業打線を寄せつけずに完封、一方的な試合になったため8回からは控えの辻山を登板させる余裕も見せた。新聞各紙は「山口の投球には力があり、打線も緻密な上に迫力があった。今日の試合で、智辯は有力校にふさわしい底知れぬ力を感じさせた」と評した。翌日の新聞紙上には「快勝」「大勝」「圧勝」「完勝」などの大見出しが踊った。学校関係者も、あらゆる言葉をつかってこの勝利を祝福した。

智 辯 学 園	0	0	0	3	7	2	0	0	0	12
川 口 工 業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	13	4	4	1	1	0	0	4
川 口 工 業	5	6	3	0	0	3	0	4

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 高嶋 仁
 (投) 一 山口 哲治
 (捕) 前田 真孝
 (一) 岸田 光司
 (二) 上村 恭生
 (三) 米田 保伸
 (遊) 中葉伸二郎
 (左) 坂本 正文
 (中) 桜井 英喜

(右) 坂口 智裕
 中 西川 一人
 一・投 辻山 正明
 山田 哲也
 出井 裕
 谷川 靖

▽第3戦

ここ10年間、奈良県勢の甲子園での躍進は目覚ましい。智辯の3回戦進出・天理のベスト8・郡山のベスト4など、15勝8敗の好成績を挙げている。これは大阪府の21勝8敗に次ぐ近畿第2位の勝率だ。一方、愛媛県は本大会の通算勝ち星が日本一だ。智辯の第3戦の対戦校は、その四国の雄・今治西。試合の見どころは、大会屈指の好投手と言われる智辯・山口と今治西・三谷の顔合わせだった。「勝負は守備力がカギになりそうだ」というのが、戦前の予想だった。山口はこれまで打者のひざ元に食い込むようなシュートを柱に、外角の速球とカーブでピッチングを組み立てて勝ち進んできた。ところが、この日はシュートの切れがいまひとつだった。1回裏、早くも今治西の打線に捕まり、1死2塁のあと長打2本を浴びて2点を先制された。2回戦まで快投を続けてきた山口が初回で今治西の打線に捕まり、その後も加点されたことで、ナインに不安と焦りが生じた。試合後、高嶋監督は「3点目を取られたら、みんなシュンとしてしまった」と語った。5回にも1点を取られ、8回には3番・阿部に本塁打（阿部は2試合連続本塁打）された。

一方、智辯は1回表に4球と盗塁で2塁を踏んだものの、その後はチャンスらしいチャンスもなかった。智辯打線は1回戦・2回戦とはうってかわり、長身・三谷投手の角度のある速球と大きなカーブ・シュートの巧みなコンビネーションに手も足も出ず、わずかに米田が1安打を放っただけで完封された。今治西は準決勝で東洋大姫路（今大会の優勝チーム）に0-1で敗れた。

智 辯 学 園	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0
今 治 西	2 0 0	0 1 0	0 1 X	4

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智辯学園	1	8	2	1	0	0	0	1
今 治 西	7	6	2	0	1	0	2	3

メンバー

部長 和泉 健守
監督 高嶋 仁
(投) 山口 哲治
(捕) 前田 真孝
(一) 岸田 光司
(二) 上村 恭生
(三) 米田 保伸
(遊) 中葉伸二郎
(左) 坂本 正文
(中) 桜井 英喜
(右) 坂口 智裕
一 辻山 正明

西川 一人
山田 哲也
出井 裕
谷川 靖

◆ 5 6 年夏の選手権大会 (第 6 3 回)

▽県大会

天理は不祥事のため出場せず「本命不在」の大会といわれた。智辯は1回戦の奈良を12-0(5回コールド)で完封。2回戦の大淀も8-1(7回コールド)でくだした。3回戦では高田に苦戦したものの、打力に優る智辯が2-1で振り切った。準々決勝の樫原戦は、本塁打を含む15長短打を集中して圧倒、8-0(7回コールド)勝ちした。準決勝の広陵戦は、智辯・西川、広陵・中島両投手の投げ合いになったが、8回のチャンスをものにした智辯が1-0で辛くも逃げ切った。

決勝戦は智辯の左腕・西川と、敵傍の下手投げ・宮田との投げ合いになった。両チームの打線も智辯8本に対して敵傍7本と、まったく互角の試合だった。智辯は4回表に2点を先制されたものの、4回裏と5回裏に1点ずつを返して同点。6回以降は西川を救援した阪本(久)と、宮田投手の投げ合いになり、両チームともゼロ行進を続けて、延長戦に突入した。智辯は延長12回の表を無失点で抑え、最後の攻撃に入った。この回、敵傍・宮田投手に連投の疲れが見えはじめた。1死から池田・阪本(久)が連続4球を選び、繁野の送りバントが成功して2、3塁へ。

この好機に、次打者・金沢はキャプテンの意地を見せた。0 - 1からの2球目を狙いどおり右前に打ち返し、3塁走者池田を迎え入れてサヨナラ勝ちした。敵傍の宮田投手は敗れたものの、この試合にも好投して智辯と互角に戦い、観衆から賞賛の拍手を受けた。智辯は、今大会6試合のうち高田、広陵、敵傍の3試合に苦戦した。各校の実力は接近しており、試合巧者の智辯が最少得点差で逃げ切った。甲子園大会出場は4年ぶり。

敵	傍	0 0 0	2 0 0	0 0 0	0 0 0	2
智 辯 学 園		0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 1	3

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
敵 傍	7	17	2	0	1	1	0	6
智 辯 学 園	8	6	5	0	1	1	1	6

◇甲子園大会

▽1回戦

大会前の抽選会で、金沢主将は「開会式直後の大会第1日・第1試合」のくじを引いた。ナインは「できれば3日目ぐらいに」と期待していたのだが…。寺下監督やナインは「ほんまかいな」「えらいくじを引きよったわ」とびっくり。選手たちはしばらくして「開会式直後は観衆も多く、やりがいがあるぞ」と気分を切り換えた。開会式直後の第1試合は甲子園の常連校でも嫌がる。選手は開会式の緊張感から解放されてホッと、開会式で荒れたグラウンドが整備されるのをベンチでじっと待たなければならない。大観衆はプレーボールを待ち兼ねている。この時間帯は何ともいえない重苦しい雰囲気に入れ、試合が始まってからも選手の動きが堅くなってしまふという。

1回表、守りに着いた智辯の選手たちに「開会式直後の第1試合」の悪影響が出た。雨のせいもあったが、堅いはずの守りに破綻が生じたのだ。エラーが2つ重なったため西川も動揺し、2点を先取された。4回途中から阪本（久）が救援したが、6回までに計4点、8回と9回にも1点ずつを奪われて試合を決められた。一方、智辯の打線は岐阜南・小田投手を打ち込めず、5回までノーヒットを続けた。ようやく6回裏、繁野の2塁打と井上の安打で1点を返したものの1 - 6で敗退した。智

辯はこれまで、春・夏合わせて4回甲子園大会に出場し、8勝を挙げている。1回戦敗退は春・夏を通じて今回が初めてで、ナインも応援団も声がなかった。

岐 阜 南	2 0 0	0 2 0	0 1 1	6
智 辯 学 園	0 0 0	0 0 1	0 0 0	1

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
岐 阜 南	6	8	7	3	7	0	0	9
智 辯 学 園	3	4	4	0	1	3	0	5

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 寺下 昌利
 (投) 西川 省吾
 (捕) 進藤 孝志
 (一) 池田 寿和
 (二) 繁野 勇人
 (三) 金沢 光則
 (遊) 生駒 敬雄
 (左) 久保 茂章
 (中) 井上 範彦

(右) 左 稲本 恵司
 投 阪本 久志
 右 市ノ瀬博善
 岡田 真
 中山 智文
 阪本 和義
 酒井 敏之

◆ 57年夏の選手権大会 (第64回)

▽県大会

春の県大会では女子大付に0-2で負けるという番狂わせを演じ、その後は西日本の強豪チームを相手に例年より多い練習試合をこなしてきた。今夏の大会はその成果を問われる大会だ。もう一つ、どうしても今回の県大会に勝って甲子園に出場しなければならない理由があった。智辯は前年秋の県大会で郡山を破り、郡山とともに近畿大会に出場したが、近畿大会では郡山が一勝を挙げ、智辯は1回戦で敗退したため57年春の選抜には郡山高校が選ばれて智辯は出場出来なかったのだ。ナインは「県大会で郡山を破っているのに…」と無念の涙を飲み「夏の大会では郡山をやっつけて甲子園に出るぞ」と誓い合った。

県大会には過去最多の40校が参加し、智辯は1回戦にシードされて

2回戦から出場した。平城に8－0（7回コールド）、3回戦で櫃原に6－2、準々決勝で二階堂に9－2（7回コールド）と順調に勝ち進み、準決勝の御所工業にも14－4と快勝して決勝戦で宿敵・郡山と対戦した。ナインは春の選抜大会に出場できなかった悔しさをぶちまけるように、初回から積極的に攻めた。1回と2回にそれぞれ1点ずつを挙げて、郡山の西田投手をノックアウト。代わった米田投手からも4回に2点、6回に1点を取って試合を決めた。芳村投手は郡山打線を散発3安打に抑える好投で5－0と完封勝利を収めた。ナインが大会前に誓い合った「郡山を破って2年連続4回目の夏の甲子園出場を…」の悲願が達成された。

智 辯 学 園	1	1	0	2	0	1	0	0	0	5
郡 山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	9	6	2	1	1	2	0	6
郡 山	3	9	0	1	0	3	0	5

◇甲子園大会

抽選会場で、芳村主将が引いた「くじ」は開会式直後の第1日第1試合…。何ということだ。2年連続で開会式直後の試合だ。瞬間、場内がどよめき、ナインは「またかヨー」とあきれ返った。寺下監督は「昨年が続いての開幕第1戦でびっくり。しかし、素晴らしいチャンスなので、ぜひとも好試合をして昨年の雪辱を期したい」と話した。前年は大観衆の雰囲気であがったためか実力を出し切れず、エラーがらみで敗れた。応援団も地元民も「ぜひとも昨年の悔しさを晴らしてほしい」と願った。

▽第1戦

対戦校は神奈川県代表の法政二。21年ぶり8回目の出場だが、昭和35年の第42回大会では柴田投手を擁して優勝。36年にもベスト4まで勝ち進んでいる。レベルの高い地区大会で優勝しており、緒戦から強敵との対戦になった。ナインは「まず先制したい」と考え、ジャンケンで勝って先攻を取った。狙いどおり、初回から法政の桜井投手を攻め立ててチャンスを作ったもののこの回は得点できなかった。しかしこれで勢いがついて、2回には2死から安打の酒井が盗塁を決め、高間も4球で歩いたあとの敵失で先制の1点を奪った。5回と6回にもチャンスをつくったが適時打が出ず、そのまま最終回に入った。9回表の攻撃は

芳村・森（代打）のヒットで1死1・2塁の好機を作った。寺下監督は強硬策に出てエンドランをかけ、酒井2ゴロの間に1点を返した。さらに2死・3塁のチャンスが続いたが、法政二・桜井投手にかわされて試合終了。智辯・芳村は立ち上がり好調で、バックも芳村をよく守り立てた。しかし4回には3本の長短打による2点で逆転され、6回にも長短打で1点を失った。2年連続で開幕試合に敗退したが、満員の大観衆からは「来年もきて頑張れ」と温かい声援が飛んだ。

智 辯 学 園	0	1	0	0	0	0	0	1	2	
法 政 二	0	0	0	2	0	1	0	0	X	3

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	8	1	3	1	0	1	1	6
法 政 二	7	2	1	0	3	1	1	6

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 寺下 昌利
 （投） 芳村 直樹
 （捕） 酒井 敏之
 （一） 久保 茂章
 （二） 曾我部 哲治
 （三） 藤岡 健
 （遊） 高間 誠一
 （左） 川谷 正直
 （中） 岡部 光宏
 （右） 北林 靖浩

左 萩原 裕三
 打 森 幸樹
 文元 達夫
 森山 和之
 阪本 和義
 北野 克之

◆ 59年春の選抜高校野球（56回）

ナインは58年秋の県大会で敵傍を7－3で破って優勝し、近畿大会では2回戦（1回戦はシード）で明石商業を7－2で破って意気盛んだった。準々決勝のPL戦は11月12日、西京極球場行われた。2年前（56年秋）の近畿大会では、先輩たちがPLと対戦して1－5で負けている。PLは甲子園の超A級・常連校であり、しかも58年秋のPLは例年より一層充実していた。高校NO1投手の桑田、強打者清原など

超高校級の選手を揃え、同年夏の甲子園大会で優勝している。智辯ナインは「先輩の借りを返そう」「当たって砕けろ」のつもりで対戦し、開き直ると闘志が燃え上がった。

堀川投手は6回途中まで、清原・桑田などP Lの中軸をよく抑えた。6回に1点を失って坂口の救援を受けたが、坂口も好投してその後は強打のP Lに得点を与えなかった。この投手陣の頑張りに対して、打線も奮起した。1点をリードされた9回、先頭の植村が桑田投手に3塁打を浴びせ、次打者はP Lに先制点を取られて無念の降板をした堀川だ。先制されたうっ憤を晴らすように、左翼へ大きな犠飛を放ち、植村を迎え入れて同点とし、「日没再試合」に持ち込んだ。

P L 学 園	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
智 辯 学 園	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
P L 学 園	7	3	6	2	2	1		11
智 辯 学 園	3	12	6	4	3	1		8

メンバー

部長	上村	恭生						
監督	寺下	昌利						
(投) 左	堀川	剛						
(捕)	小松	敬志						
(一)	野辺地	達也						
(二)	渡辺	裕之	投	坂口	裕俊			
(三)	葛原	庸宏	三	滝本	治			
(遊)	榎原	敏男		今山	和之			
(左)	中川	雅夫		中井	拓己			
(中)	植村	寛之		青山	圭一			
(右)	東	秀年		河内	剛			

▽P Lと再試合

1 - 1のまま日没で再試合に持ち込んだ智辯は、翌日1日休養したあと再びP Lと対戦した。この日のP Lはさすがに巧みな試合運びをした。1回表に堀川の立ち上がりをついて2点を奪い、2回に3点、4回に2点と着実に得点を追加した。これに対し智辯も2回に1点、7回以降は

毎回得点したが今一步及ばなかった。智辯打線は桑田投手を攻め、安打数は13本でPLの10本を3本上回ったが、三振と併殺などでチャンスを潰した。しかしこの二試合を通じて、智辯ナインは「PLの選手も同じ高校生だ。互角に戦える」と自信を深めた。この対戦は選抜野球選考会でも高く評価され、59年春の甲子園出場に結びついた。

7年ぶり3回目の選抜出場とあって、部員たちは藤田校長や寺下監督を次々に胴上げして祝福し合った。智辯はこのところ、夏の甲子園大会に56年・57年と2年連続で出場したが、いずれも1回戦で敗退したし、58年夏の県大会では、一回戦で北大和に0-1（11回サヨナラ）で敗れている。それだけに、7年ぶりの「春の甲子園出場」をバネに再起を望む声が強かった。

P L 学 園	2	3	0	2	0	0	0	0	0	7
智 辯 学 園	0	1	0	0	0	0	1	1	1	4

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
P L 学 園	10	4	4	4	0	1	0	5
智 辯 学 園	13	7	2	1	2	1	2	9

メンバー

部長 上村 恭生
 監督 寺下 昌利
 (投) 左 堀川 剛
 (捕) 小松 敬志
 (一) 野辺地 達也
 (二) 渡辺 裕之
 (三) 葛原 庸宏
 (遊) 榎原 敏男
 (左) 中川 雅夫
 (中) 植村 寛之
 (右) 東 秀年
 投 坂口 裕俊
 三 滝本 治

今山 和之
 中井 拓己
 青山 圭一
 河内 剛

◇甲子園大会

1回戦の相手はレベルの高い千葉県代表・拓大紅陵。初出場ながら

投・攻・守にバランスのとれたチームだ。智辯も前年秋の県大会、近畿大会と着実に力を伸ばしており、好試合の期待に野球ファンはわいた。対戦の当日、各新聞は「智辯が昨年秋の近畿大会で、P Lと1－1の引分け再試合を演じた実力を評価したい。投手力は両チームともやや不安で、打力と機動力は智辯に分がある」と論評した。今大会でも最有力視されるP Lと互角に戦ったことが、どこでも高く評価されていた。

やや不安と見られた投手陣だったが、堀川は5回までよく投げた。戦前「攻撃的な野球をやりたい」と話していたように、打線も1回、3回、5回にいずれも先頭打者を塁に出すなど、押しぎみの試合展開だった。しかし強行策が失敗して3つの併殺に倒れるなど、攻撃野球は空回りし、拓大紅陵の堅い守備に阻まれた。智辯がもたついている間に紅陵は6回に1点を先取、智辯は5回途中から疲れが見え始めた堀川に代えて川口・中井・青山とリレーして防戦に努めたが、7回に集中打で一挙5点を奪われ、8回にも3点本塁打を打たれて大量リードされた。智辯はようやく7回、疲れが見え始めた拓大紅陵・古橋投手を捕らえて堀川・坂口の長打で3点を奪ったが、試合をひっくり返すことは出来なかった。

拓大紅陵	0	0	0	0	0	1	5	3	0	9
智辯学園	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
拓大紅陵	13	4	3	2	5	1	3	7
智辯学園	8	2	2	2	1	0	0	4

メンバー

部長 上村 恭生
 監督 寺下 昌利
 (投) 左 堀川 剛
 (捕) 小松 敬志
 (一) 野辺地 達也
 (二) 渡辺 裕之
 (三) 葛原 庸宏
 (遊) 榎原 敏男
 右 (左) 投 坂口 裕俊
 (中) 植村 寛之
 (右) 東 秀年

投 中井 拓己
 投 青山 圭一
 打 中川 雅夫
 滝本 治
 今山 和之
 河内 剛

◆ 59年夏の選手権大会（第66回）

▽県大会

今大会は順当に勝ち進んで優勝。春に続いて2年ぶり5回目の「夏の甲子園出場」を決めた。春・夏連続出場は山口投手を擁した52年に続いて7年ぶり2回目。このチームは攻・守・走のバランスがとれていたが、軸になる投手がいなかったのが悩みだった。寺下監督は「優勝するためには投・打の中心になる選手の養成がカギだ」と、堀川を投・打の主軸に仕立てた。これに刺激されて植村、楳原、小松らも大きく成長した。天理と準決勝で当たったのも幸いした。選手たちは「決勝戦ではない」ことでリラックスして気迫で天理を圧倒した。逆に天理は意外に堅くなっていた。それまで3試合で1失策しかなかったのに、智辯戦では1試合で5個の失策を重ねるなど、例年の大会とは立場が完全に逆転していた。1回表、先頭打者・楳原からの3連続安打で1点を先取。なお2死1塁で、植村が今大会2本目のホームラン（大会タイ記録の第11号）を放って2点を追加、天理の出鼻をくじいた。3回にも3つの失策を誘って2点を追加、リードを広げた。5回に1点、6回にも2点と駄目を押す理想的な試合運びで天理を圧倒した。先発・堀川は8回に3点を失ったものの天理打線を抑え、救援・坂口も好投した。この試合で自信を付けた智辯学園は、決勝戦でも榎原を6-0とシャットアウトして「甲子園への切符」を手にした。

智 辯 学 園	3 0 2	0 1 2	0 0 0	8
天 理	0 0 0	0 0 0	0 3 0	3

榎 原	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0
智 辯 学 園	0 2 0	0 0 0	0 4 X	6

◇甲子園大会

▽第1戦

対戦校の浜松商業は夏の甲子園6回出場の強豪。打力が看板で、5番・野島は通算本塁打37本と、同県屈指の長距離打者だ。3番・佐野は4割5分の好打者のうえ盗塁も6個を記録している。これに対して智辯は、1番・楳原から渡辺、堀川、今山、植村と続く上位打線、小松以降の下位打線とも好調だ。ここで両県大会の成績を比較してみよう。（試合数は智辯5試合、浜松商業6試合）。両県野球のレベルや対戦校などを考

慮しなければならないが、両校の差は三振と打率・盗塁・失点などであり、この数字で見る限り、浜松商業の打線はやや荒っぽい感じがする。

	得点	失点	安打	長打	三振	犠打	盗塁	失策	打率
浜 松	32	6	53	17	27	10	17	2	0.279
智 辯	36	9	52	16	18	12	13	3	0.335

試合は智辯が前半一方的に攻めて1回に早くも1点を先制した。2回の攻撃は下位打線から始まったが、2死から8番の中川がヒットで出塁したあと盗塁を決め、この機動力野球が4球や敵失を誘って満塁とし、この好機に渡辺が走者一掃の3塁打を放って3点を追加した。3回にも野辺地のホームランなどで3点を挙げるなど一方的な試合運びで、4回までに7-0の大差をつけた。この目もさめるような速攻に、選手も応援団も「楽勝」を信じて疑わなかった。5回表、疲れの見た堀川に代わって、坂口が登板した。しかし坂口も2つの4球を出し、そのあと3安打と3点本塁打などで一挙6点を失った。その差はわずかに1点。浜松商業の猛攻に応援団の間で「もしかしたら…」の不安が広がって行った。しかし智辯も、6回から代わった浜松商業・浜崎を攻めて、7回に1点を追加。その差を2点に広げて最終回に入った。9回表の浜松の攻撃を迎えて、応援団は「2点差を何とか守り切ってほしい」と祈るような気持ちで見守った。

その最終回、甲子園の大観衆が「まさか」と思ったことが起こった。救援・坂口投手は悪夢のような5回を終えて6・7・8回は無難に切り抜け、2点リードのまま最終回を迎えたが、その最終回、浜松商業の先頭打者にホームランを打たれて1点を失い調子を狂わせてしまった。次打者にも2塁打浴びて降板、3人目の1年生投手・小西も長打を浴びて一挙に3点を失い大逆転を許した。「甲子園には魔物が住んでいる」といわれる。智辯は序盤の大量リード、終盤のだめ押し…と理想的な試合運びをしてきただけに、選手も応援団も「信じられない」表情だった。結果論に過ぎないが、この敗戦は「前半の大量リードで無意識に気が緩んだ」「中盤で追いつかれて焦りが出た」「適時打が出ず、残塁が多かった」という典型的な敗戦のパターンだった。

浜 松 商 業	0	0	0	0	6	0	0	0	3	9
智 辯 学 園	1	3	3	0	0	0	1	0	0	8

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
浜松商業	12	3	7		2	2		8
智辯学園	16	4	5		2	0		13

メンバー

部長 上村 恭生
 監督 寺下 昌利
 (投) 左 堀川 剛
 (捕) 小松 敬志
 (一) 野辺地 達也
 (二) 渡辺 裕之
 (三) 今山 和之
 (遊) 煤原 崇
 (左) 右 中川 雅夫
 (中) 植村 寛之
 (右) 河内 剛

投 坂口 裕俊
 投 小西 良城
 打 小泉 祐治
 滝本 治
 近藤 信紀
 吉村 良彦

◆ 60年夏の選手権大会 (第67回)

▽県大会

甲子園に駒を進めるのは、智辯か天理か…。今年も夏の甲子園を目指す48校が県大会で熱い戦いを演じた。智辯は2回戦から出場して上牧を10-1 (5回コールド)、3回戦で御所工業を10-0 (6回コールド) と完封。準々決勝で郡山を9-2 (8回コールド)、準決勝でも大淀を8-2で破って決勝戦に進出した。当初からの予想どおり、智辯・天理の優勝戦となった。壮絶な打ち合いが続き、試合は全く予断を許さないシーソーゲームだったが、常に先行した智辯が1点差で天理の追撃を振り切った。応援団は選手に、選手は応援団に「お疲れさまでした」と、お互いに声を掛け合って祝福し合った。智辯は2年連続6回目の優勝を飾り、甲子園大会への出場が決まった。折しも学園創立20周年の記念すべき年でもあり、学校関係者の喜びはひとしおだった。

智辯は前半、1年生投手・辻本が好投し打線の援護もあって、5回まで4-1でリードを保った。しかし強打の天理は6回に辻本を捕らえて同点とし、試合を振り出しに戻した。智辯7回の攻撃は、「追いつかれたら、すぐに突き放せ」の言葉どおりだった。2死1・3塁で松葉が1点をたたき出したのに続き、坂口が左越えの本塁打を放ち、この回一挙

に4点を奪った。これで試合は決したかに見えたが、天理にしぶとく食い下がられて8回裏に3点を取られ、再び1点差に迫られた。最終回、智辯は渡辺からの3連打で貴重な1点を挙げ、その差を再び2点に広げた。しかし天理もこのまま黙って引き下がるチームではない。その裏に1点を取られ、なおも2死1・2塁のピンチを迎えた。しかし辻本はよく踏ん張って天理・北野を三振にとり、ようやく熱闘に終止符を打ったのだった。両チームの強力打線が火をふき、一瞬も目を放せない壮絶な戦いだった。試合後、寺下監督は「この試合は辻本に賭けた。それにしても天理の打線の凄さには脱帽する。学校創立20周年の節目に優勝できて本当にうれしい」と、ナインの頑張りに胸を熱くしていた。

智 辯 学 園	0	1	0	2	1	0	4	0	1	9
天 理	0	1	0	0	0	3	0	3	1	8

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	12	5	2	1	1	3	0	7
天 理	14	5	2	0	2	3	1	10

◇甲子園大会

今大会は、超高校級と騒がれているP L学園の桑田・清原両選手など、話題に事欠かなかった。各府県チームはP L学園の桑田・清原との対決を夢見て甲子園に臨んだし、智辯ナインの胸中にも「桑田・清原と対戦してみたい」との思いがあった。それにはまず、当面の敵である群馬県代表・東京農大二を倒さなければならない。東京農大二は地区予選でのチーム打率4割1分1厘、対する智辯学園ナインも1試合平均9点をたたき出す強打と機動力を誇っている。チーム力はほぼ互角で好試合が期待された。

辻本投手は1回、無死1・2塁のピンチを迎えたが、小松捕手の素晴らしいけん制で救われて調子を取り戻した。5回裏にやや疲れて東京農大二の打線に3本の長短打を浴びたが、1点で切り抜けた。一方、智辯の打線は東京農大二の左腕・竹内投手のコーナーを突く好投に抑えられて、なかなかチャンスをつかむことが出来ない。7回ようやく坂口が左越えの本塁打を放って同点とし、1－1のまま延長戦に入った。10回表の智辯は無得点。その裏、東京農大二に1死2塁から2塁打を打たれて1－2で惜敗した。智辯は52年夏に山口を擁して準決勝まで進んだ

あと56年夏・57年夏・59年春・59年夏と、5回も甲子園に出場しながら1勝もできない。応援団は「なんとかして、1回戦ボーイ」の汚名をそそいでほしい」と願ったのだが……。

智 辯 学 園	0 0 0	0 0 0	1 0 0	0	1
東京農大二	0 0 0	0 1 0	0 0 0	1	2

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	6	7	2	0	1	0	6	2
東京農大二	11	3	3	0	2	0	8	0

メンバー

部長 上村 恭生
 監督 寺下 昌利
 (投) 辻本 弘樹
 (捕) 小松 啓志
 (一) 松葉 浩己
 (二) 福井 至
 (三) 坂口 裕俊
 (遊) 渡辺 裕之
 (左) 堀川 剛
 (中) 東 秀年
 (右) 高田 裕之

置本 圭一
 吉岡 寛
 三宅 章介
 吉村 良彦
 小西 良樹
 阪本 匡史

◆ 61年春の選抜大会 (第58回)

▽県大会・近畿大会

選抜委員会では前年秋の県大会優勝、近畿大会準決勝戦での上宮との延長18回の熱闘、本格派2年生投手・辻本の進境が著しい点…などが評価されて、2年ぶり4回目の選抜出場が決まった。辻本は昨年夏の甲子園で「将来性ある1年生投手」として脚光を浴びており、「PLの桑田さんのように、在学中に5回連続甲子園出場を果たしたい」というのが夢だった。秋からの10試合のうち2試合を完封、68回と3分の1を投げて奪三振67と好調を持続している。スポーツ紙の中には「ポスト桑田は享栄の近藤と智辯学園の辻本」と報じるところもあった。

前年秋の近畿大会準決勝戦は球史に残る激戦だった。智辯は1回戦シー

ド、準々決勝の和歌山・御坊商工戦は2－0で快勝し、準決勝で大阪・上宮と対戦した。智辯は1回表に高田がいきなり2点本塁打し、さらに2本の長短打で1点を追加して初回で早くも3点を先取した。その後3回・6回・8回にも1点ずつを加えて、常に上宮をリードしながら試合を進めた。しかし上宮も智辯・辻本投手を攻めて1回裏に1点、5回に2点、7回に1点、9回に2点を奪って同点とし延長戦にもつれこんだ。智辯は10回に先発・辻本から吉村へ、上宮も先発・広田から植田へ継投して、その後は両投手の好投とバックの好守備で共に譲らず延長18回を迎えた。18回表の智辯は無得点。その裏、上宮が1死1・3塁のとき智辯にエラーが出てさよならゲームとなったが、2試合分18インニングという文字どおりの“死闘”だった。

智辯	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
上宮	1	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智辯学園	20	5	8	3	5	2	0	19
上宮	14	13	11	2	5	1	2	20

メンバー

部長	上村	恭生		
監督	寺下	昌利		
(投) 左	辻本	弘樹		
(捕)	阪本	匡史		
(一)	松場	浩己		
(二)	窪西	克幸		
(三)	柴垣	好宏		
(遊)	小西	良城		
(左)	竹邨	治之		
(中)	高田	裕之	今村	和嗣
(右)	堺	博司	森本	浩教
投	吉村	良彦	脇田	啓司
左	逸崎	義憲	植村	英毅

◇甲子園大会

▽1回戦

対戦校は、北海道代表・函館有斗。北国チームにとって選抜高校野球大会は多くのハンデを抱えての出場となる。新チーム結成いらい積雪や寒気のために思うような練習が出来ず、とくに守備練習が出来ないのが問題だとされている。抽選会で「対戦校は北海道代表・函館有斗」と決まったとき、ナインは「やったぞ」「いただこうぜ」と喜んだ。しかし寺下監督はチームの大黒柱・辻本投手の仕上がりが遅れていたことと、ナインが函館有斗を甘く見ていないかという二つの心配があった。試合は開幕から3日目だから、辻本は何とか調整出来そうだった。しかし選手たちが北海道勢を見くびっている点については、気の緩みにつながり兼ねないため気がかりで、選手たちの気を引き締めるのに苦労した。

監督の予想どおり辻本投手はよく頑張って函館有斗の打線を4安打に抑え、奪三振9・4死球0と数字の上では申し分ない投球内容だった。しかし5回の2安打と8回の1安打がいずれも得点に結びつき、試合巧者の函館有斗・打線にやられてしまった。一方、智辯打線は松葉が2塁打を1本放っただけで、函館有斗・西沢の横に流れるカーブとナチュラルシュートに手も足も出なかった。4球のランナーを出しても適時打がなく完敗した。寺下監督は53年秋の就任以来、春夏合わせて6回の甲子園出場を果たしながら、いずれも緒戦で敗退しており、今回も「監督に1勝をプレゼントしたい」というナインや全校生徒・職員の願いは達成出来なかった。今大会注目の速球投手である沖縄水産・上原、享栄・近藤、関東学園大付・霜田、智辯の辻本らは1回戦で早々と姿を消した。

智 辯 学 園	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0
函 館 有 斗	0 0 0	0 1 0	0 1 X	2

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	1	4	3	1	3	1	0	5
函 館 有 斗	4	9	0	0	2	2	0	1

メンバー

部長 上村 恭生
 監督 寺下 昌利
 (投) 辻本 弘樹
 (捕) 阪本 匡史
 (一) 松場 浩己
 (二) 窪西 克幸

(右) 堺 博司
 吉村 良彦
 今村 和嗣

(三) 柴垣 好宏
 (遊) 小西 良城
 (左) 竹邨 治之
 (中) 高田 裕之

森本 浩教
 脇田 啓司
 逸崎 義憲
 植村 英毅

◆平成1年夏の選手権大会（第71回）

▽県大会

小泉・上野両投手と打線の活躍で、県大会は順調に勝ち進んだ。準決勝戦では天理と対戦して5－2で快勝した。1回の表・裏で両チームが1点ずつを上げて打撃線の様相だったが、その後は両チーム投手の好投で膠着状態が続いた。均衡を破ったのは6回表の智辯。先頭・田淵が4球を選び、送りバントのあと名迫・小泉も連続4球を選んで1死満塁のチャンスを迎えた。この好機に、金沢が期待に応えて左中間に走者一掃の2塁打を放って3点を上げた。さらに9回、死球による押し出しで1点を追加、小泉投手は天理打線を5安打2点に抑えて勝った。

天理に勝った余勢をかって、決勝の斑鳩戦に臨んだ。0－0で迎えた3回表、4球の村井を3塁に進めたあと、丸橋の中前打で1点を先制したが、その裏斑鳩に同点にされ、5回には1点リードされた。6回表、中前打の福永を蛇目の右中間ヒットで返して同点。7回にも4球の名迫を村井の中前打で返して逆転、8回には田淵の3塁打と敵失で2点を加えて試合を決めたかに見えたが、最終回には粘る斑鳩に2点を返されて1点差でからくも逃げ切った。この試合、斑鳩は13安打で智辯の7安打をしのぎ、残塁は智辯の6個に対して12個で、もし斑鳩に適時打が出ていれば…と考えると冷や汗ものの勝利だった。

智 辯 学 園	1	0	0	0	0	3	0	0	1	5
天 理	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2

智 辯 学 園	0	0	1	0	0	1	1	2	0	5
斑 鳩	0	0	1	0	1	0	0	0	2	4

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	7	4	5	1	4	1	0	6
斑 鳩	13	5	3	1	0	1	1	12

夏の県大会優勝は4年ぶり7度目。ナインは優勝旗を先頭に意気揚々と学校に帰り、教職員や野球部父兄、先輩らの盛んな出迎えを受けた。和歌山でも兄弟校の智辯学園和歌山校は、1日早く和歌山大会で優勝を決めていた。「兄弟校が揃って甲子園出場」というのが、藤田校長をはじめ全教職員・全校生徒の長年の夢だっただけに、この夏の学園は「特別な喜び」にわいた。学校壮行会の席上、直径1メートルもの和太鼓が披露された。野球部員・高山真一君（3年生）の家族から寄贈されたものだ。高山君の父・敬次氏は奈良県警警部補で大の野球好きで、橿原市内の少年野球・白樫オリオンズのコーチなどをしていた。真一君に野球選手の夢を託し「甲子園に出場したら、この太鼓で精いっぱい応援するぞ」と楽しみにしていたが、五条署に勤務中の63年暮れに交通事故で亡くなった。息子がいる智弁学園野球部の甲子園出場を見ることなく…。家族は敬次氏が果たせなかった夢を実現してほしいと、この太鼓を学校に寄贈されたのだ。真一君はレギュラーでないため、応援団の一員としてアルプスから仲間に声援を送ることになった。甲子園では和太鼓の使用が禁止され、この太鼓を持ち込むことは出来ないので「せめてブラスバンドのドラムを父の太鼓と思い、父と二人の思いを込めてたたき続けたい」と考えた。第71回全国高校野球大会のアルプススタンドに、一生懸命にドラムをたたき、仲間を激励する真一君の姿があった。

◇甲子園大会

8月9日、第71回全国高校野球選手権大会の開会式。奈良校ナインは満員の観衆が見守るなかを常連校らしく堂々と行進、和歌山校ナインが続いた。同じユニホームの兄弟校が2校続いて入場するのは、永い甲子園大会の歴史で初めてだった。両校の出場は両県大会優勝と同時に全国的な話題になっていた。観衆の拍手は一段と高まった。大球場と大観衆…。甲子園はこんなにも素晴らしい舞台だ。選手たちは「よし、やるぞ」と誓い合った。

▽1回戦 智辯学園6－1新潟南

対戦校は新潟南で「特に目立った選手はいないが、よくまとまったチーム」という前評判。今年の智辯チームは投・攻・守ともまとまり、機動力を生かした攻撃的なチームになっている。1回表に先頭打者・金沢がヒットで出塁、丸橋の1－2塁間を破る安打で1点を先取、さい先よい先制に得点にアルプススタンドはわいた。1回裏の新潟南の攻撃を小泉が抑えた。「この調子なら、いけそうだ」という予感…。アルプスの人文字「C」が大きく揺れ、応援団は声を限りに声援を送った。4回には名迫が内野安打で出て送りバントと敵失で1死1・3塁の好機を迎えて金沢の安打で1点を上げたあと、丸橋が左中間へ3塁打して2点を追加、

さらに久原と蛇目も連続安打して2点を追加した。この回は打者9人を送る猛攻で5点を奪い、中盤で早くも新潟南を圧倒した。守っては、小泉が新潟南打線を6安打の1点だけに抑えて快勝した。皆が肩を抱き合い握手し、女生徒の中にはうれし泣きする者もいて、スタンドは勝利の快感と感動に酔った。

甲子園で勝利し智辯の校歌が球場に流れたのは、昭和52年夏（第59回大会）いらい実に12年ぶりだ。52年のチームは山口哲治投手（近鉄→阪神→近鉄）を中心に投・攻・守の3拍子が揃い、春の選抜大会では準決勝・夏の選手権大会でも3回戦まで勝ち進んだ強力チームだった。その後の12年間は春の選抜に59年・61年の2回、夏の選手権に56年・57年・59年・60年の4回、春・夏合わせて6回出場したが、いずれも1回戦の壁を破れずに敗退している。勝敗には「運」もある。だが6回出場して1勝も出来なければ「1回戦ボーイ」と呼ばれてもしかたがない。野球部員はもちろん全校生徒がこの長い屈辱に耐えてきた。それだけに新潟南を破って12年ぶりに甲子園で1勝し、校歌を大合唱した喜びは大きかった。

智 辯 学 園	1 0 0	5 0 0	0 0 0	6
新 潟 南	0 0 0	0 0 1	0 0 0	1

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	16	2	1	5	4	0	2	8
新 潟 南	6	4	2	1	2	2	0	5

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 上村 恭生
 (投) 小泉 竜二
 (捕) 蛇目 雄之
 (一) 名迫 昌樹
 (二) 村井 成豪
 (三) 金沢 泰秀
 (遊) 丸橋 功典
 (左) 前野 勝久
 (中) 久原 博喜
 (右) 志野 浩章

田 淵 智 宏
 福 永 義 浩
 上 野 貴 史
 北 佳 史
 松 倉 康 孝
 上 山 惣 太

▽ 2 回戦 智辯学園 6 - 2 東京農大二

東京農大二（群馬）は今大会 1 回戦で日向（宮崎県）を 1 0 - 6 で破った打撃のチームだ。東京農大二と決まったとき、ナインの中から「先輩の仇討ちをしよう」という声が上がった。4 年前の第 6 7 回大会（昭和 6 0 年）1 回戦で、先輩たちは東京農大二と延長 1 0 回の熱闘のすえ 1 - 2 で惜敗ししている。ナインにとって、2 回戦は「どうしても負られない相手」だった。序盤は東京農大二に押されながらも、智辯はよくピンチをしのいだ。3 回表もすでに 2 死となって「この回も無得点か」と思われたが、村井の遊ゴロが敵失を誘って待ちに待ったチャンスが訪れた。村井は東京農大二・星野投手のけん制悪送球で一挙に 3 塁へ。「向こうからやって来たチャンス」に、金沢・福永・丸橋が 3 連打して 2 点をもぎ取った。これで波に乗ったナインは 5 回にも 4 球の福永を久原の 2 塁打で返して 1 点を追加。7 回には救援した東京農大二・中村投手をとらえ、4 球と丸橋の内野安打で 2 死 1 ・ 3 塁のチャンスをつくった。このあと久原の安打と蛇目の 3 塁打で 3 点を奪って試合を決めた。小泉投手は 5 回まで 9 本のヒットを浴びながらバックの堅い守りに助けられ、6 回から救援した上野投手は 2 安打に抑えて甲子園大会 2 勝目を上げた。

智 辯 学 園	0	0	2	0	1	0	3	0	0	6
東京農大二	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	9	1	4	1	4	1	0	7
東京農大二	11	6	2	1	2	2	0	10

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 上村 恭生
 （投） 小泉 竜二
 （捕） 蛇目 雄之
 （一） 名迫 昌樹
 （二） 村井 成豪
 （三） 金沢 泰秀
 （遊） 丸橋 功典
 （左） 田淵 智宏
 （中） 久原 博喜

（右） 福永 義浩
 投 上野 貴史
 志野 浩章
 前野 勝久
 北 佳史
 松倉 康孝
 上山 惣太

▽ 3 回戦 智辯学園 0 - 2 海星（三重）

東京農大二に快勝したナインは、翌日海星（三重県）と対戦した。ナインも応援団も「この試合にも勝って、夏の甲子園で先輩たちもやれなかったベスト8進出を…」と意気盛んだった。2日連続の試合も応援も苦にならなかった。アルプスを埋めた応援団は「さあ存分にやってくれ」「智辯の底力を見せてやれ」と声を限りの声援を送った。序盤は押されぎみだったが、応援団は「いつものパターンだ」とさほどの動揺もない。そして3回に待ちに待ったチャンスがやってきた。小泉のヒット、金沢の4球と丸橋の振り逃げで、2死ながら走者満塁の絶好のチャンス。しかも打者はチームで最も信頼できる4番・久原だ。応援団もベンチの選手たちも固唾をのんで久原の打席を見守った。しかし期待の久原は力が入り過ぎたのか、遊ゴロに終わった。

智辯打線は1回戦と2回戦でいずれも6点をたたき出したが、この試合に限って沈黙してしまった。4回以降は海星・森投手の延びるストレートとカーブにてこずり、散発の3安打に終わった。一方、智辯の小泉・上野両投手はよく踏ん張って海星打線を2点に抑えたが、打線が不発ではどうしようもなかった。

スタンドを生めた大応援団は、ここまで勝ってきたナインへ温かい拍手を送った。帰りのバスの中でも、わずか2点差だった試合を惜しむ声もあったが、意外とさばさばした表情で、ナインの健闘を讃えていた。

海星・三重	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
智 辯 学 園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
海星・三重	9	4	2	1	5	0	0	9
智 辯 学 園	3	7	1	0	2	0	0	5

メンバー

部長	和 泉	健 守
監督	上 村	恭 生
（投）	小 泉	竜 二
（捕）	蛇 目	雄 之
（一）	名 迫	昌 樹
（二）	村 井	成 豪
（三）	金 沢	泰 秀

志野 浩章

(遊) 丸橋 功典
(左) 田淵 智宏
(中) 久原 博喜
(右) 福永 義浩
投 上野 貴史

前野 勝久
北 佳史
松倉 康孝
上山 惣太

▽秋の県大会

夏の甲子園大会で3回戦まで勝ち進み、12年ぶりに校歌を歌った感激は秋に結成された新しいチームに引き継がれ、新チームは「先輩たちにつづけ」を合言葉に練習に励んだ。秋の県大会は1回戦シード、2回戦の志貴を延長11回3-2で破って3回戦へ。その後は西大和を2-1、御所工業を7-5、正強を2-1と僅差で破って勝ち進んだ。決勝戦では宿敵・天理と対戦、激しい打撃戦のすえ8-5と破って優勝した。

▽近畿大会

1回戦はシード、準々決勝で京都・北嵯峨と対戦して、息詰まるような投手戦のすえ、延長10回に3-2で勝って準決勝に進出した。相手はレベルの高い大阪府の雄・近大付属。この試合も両校投手の投げ合いで緊迫したゲームがつづき、結局1-3で惜敗したものの、その健闘ぶりが高く評価されて翌年春の選抜高校野球大会に選ばれたのだった。

◆平成2年

◇第62回選抜高校野球大会

▽1回戦 智辯学園 0-1 東北

主戦・小泉は昨年夏の甲子園で2勝して自信をつけたし、県大会や甲子園で1~2点差のゲームを投げ抜いて勝ってきただけに精神的にも一段と大きく成長していた。前年末に右足首をねんざしたのをきっかけに、これまでの直球主体の投球から横にスライドするカーブを身に付け、フォーク・スライダー・シュートなど多彩な投球が出来るようになった。1回戦の相手は、過去に選抜10回・夏15回出場の東北地方の名門・東北高校。左腕の加藤投手は前年秋の新チーム結成以来負け知らずだ。打線もレギュラー9人のうち4人が4割バッター、チーム打率は3割8分9厘で出場32校中トップ。小泉がこの強力打線をどう抑えるかがカギになる。

右の好投手・智辯学園小泉と左腕の本格派・東北加藤の投げ合いで、息詰まる投手戦となった。小泉は伸びのある直球と鋭いカーブで強打の東北打線を2安打に抑える好投をしたが、ただ一度の危機を4回裏に迎えた。一死後の打者に4球を与え、送られて二死2塁となったところで4番・加藤に2塁前にはじき返されて1点を奪われた。一方、智辯打線

は東北の左腕・加藤の外角に落ちるシュートにてこずっていたが、5回表にチャンスがやって来た。先頭の小泉が4球で出塁したあと、今西の犠打で一死2塁。つづく三並の右飛を右翼手が落球する間に小泉は3塁へ進み、一死3・1塁の絶好の得点機を迎えたのだ。加藤から連打を奪えないことが分かっているだけに、ここはスクイズで同点にしたいところ。しかし東北バッテリーに外され、小泉が3・本間に挟殺された。なお二死3塁だったが、次打者が三振して同点機を逸し涙をのんだ。

この試合、小泉は東北打線に投球数84で2安打、四球も1つだけしか与えず、走者を3人しか出さないという「見事な投球」を見せたが報われなかった。しかしプロのスカウトや高校野球ファンからは一躍注目を集めた。智辯打線は好投手加藤から3安打・3つの四球を奪い、数字の上では東北に勝っており、勝運がなかったとしか言いようがなかった。

智 辯 学 園	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 北	0	0	0	1	0	0	0	0	X

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	3	7	3	0	3	0	0	4
東 北	2	2	1	0	1	0	0	1

メンバー

部長	和泉	健守		
監督	上村	恭生		
(投)	小泉	竜二		
(捕)	田淵	智宏		
(一)	三並	一郎		
(二)	車谷	英紀	山形	英樹
(三)	中尾	勝史	杉山	治樹
(遊)	古井	孝明	森元	貴敏
(左)	今西	宏至	上田	行秀
(中)	中島	大介	中西	茂
(右)	高宮	達也	徳田	勲

平成2年の選抜高校野球大会以降の2年間は全体的に振るわず、平成三年春は準決勝止り、夏は1回戦で志貴に3-7で敗れるという番狂わせがあった。秋は3回戦に残ったが、五條に3-7で完敗した。

◆平成4年

▽春の近畿大会

春の県大会は順調に勝ち進み、決勝戦で天理を6－5で下して近畿大会に臨んだ。1回戦で和歌山工業に5－2で勝ったものの、準決勝の比叡山には3－4で惜敗した。

▽夏の県大会・橋本が本塁打新記録

春の県大会と近畿大会で自信をつけたナインは1回戦シード、2回戦で五條を11－3であっさりと一蹴し、前年秋の県大会で敗れた恥辱を晴らした。3回戦は西ノ京を7－0で下し、準々決勝で耳成に6－3、準決勝で桜井商業に8－5と順調に勝ち進んだ。決勝戦では天理と対戦し、善戦しながらも4－5と惜敗して2年ぶりの甲子園出場はなかった。この試合、智辯は1回表に1点を先取したが、3回裏に同点にされ振り出しに戻った。しかし4回表には一死から4番・橋本が左翼席に、今大会4本目のホームラン（個人本塁打では大会新記録）を放って再びリードした。5回にもさらに2点を追加して4－1とし、このまま試合を決めるかに見えたが、5回・6回・7回に1点ずつを失って同点にされた。9回裏に俊足の天理・山崎を4球で歩かせたのが、結果的には命取りとなった。山崎に2盗・3盗されたうえ、今大会5割の打率を誇る福田に右・中間を破られてサヨナラ負けした

智 辯 学 園	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4
天 理	0	0	1	0	1	1	1	0	1	5

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	8	3	1	1	1	4		4
天 理	8	9	5	3	1	0		12

▽秋の県・近畿大会

新チームになってからも県大会を順調に勝ち進み、準決勝で天理を7－3で破りながら決勝戦でまたしても五條に2－5で敗れた。公立校の優勝は昭和63年の片桐以来4年ぶりだった。近畿大会には五條高校とともに出場、1回戦で京都代表の東山と対戦した。3回まで毎回ランナーを出しながら得点出来ないまま5回に2点を先制され、6回表に1点を返したものの、その裏再び2点を奪われて主導権を握られた。8回に1点を返し、いったんは4－2として最終回に希望をつないだが、その裏に3点を追加

されて試合を決められ、9回表に2点を返したものの及ばなかった。東山は今大会で優勝したため、本校チームは平成五年春の選抜高校野球大会出場にわずかながら望みをつないだ。

智 辯 学 園	0	0	0	0	0	1	0	1	2	4
東 山	0	0	0	0	2	2	0	3	X	7

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
智 辯 学 園	5	5	8	1	2	2	0	10
東 山	11	3	3	0	1	3	0	6

▽選抜出場決まる

いよいよ選抜代表校が決まる二月一日やって来た。学校関係者は「近畿大会で一回戦に敗れたのだから、非常に微妙な情勢」と考えていた。午後二時過ぎには各新聞社・放送局から「取材」の申し込みがあり、それでも半信半疑。四時を過ぎ四時半・四十分になっても朗報は届かず、報道陣もいくらか焦り気味で、しきりに各支局と連絡を取るが「まだ情報が入っていない」という。こんなに連絡が遅れることはなかっただけに、やや諦めかかった午後四時五十三分、待ちに待った朗報が届いた。今冬初の雪が舞いはじめる中、校長はグラウンドで待ち受ける部員を前に「いま朗報が届き、諸君の精進が実った。ともに近畿大会に出ながら今回の選抜に漏れた五條高校はもちろん、県内各学校の野球部の諸君の分も、甲子園で頑張ってもらいたい」と激励。選手たちは校長・監督・部長・コーチ・主将を次々に胴上げし、カメラマンの注文に応じて帽子を投げ上げたり、主将を人馬に寄せたりして喜びを体いっぱい表現した。今回はとくに、橋本主将をはじめ半数近くの選手たちがユニフォームの袖で目頭をぬぐう姿が印象的だった。過去の選手たちはこんな姿を見せたことがない。それだけ、選手たちは今回の選抜選考に期待と、不安を持っていたのだろう。良かった。本当に良かった。

◇甲子園大会

1回戦は大会第2日・第4試合で長崎日大と対戦することになった。長崎日大は春・夏を通じて甲子園初出場ながら、昨年秋の九州大会で準優勝の実力校で試合巧者だ。橋本投手は立ち上がりから決め球の直球が高めに浮き、1回に重盗されて1点、2回はスクイズで1点、3回は3点2塁

打されて序盤で5点を失った。4回から冷静さを取り戻してカーブ主体のピッチングに切り替え、その後は2安打しか許さず味方打線の奮起を待った。2回には西岡（誠）の右・中間2塁打と谷口の右前打に敵失をからませて1点、4回にも福井の左越え打で1点、6回にも3塁打の福井をスクイズで返して1点と小刻みに追い上げたが及ばなかった。それにしても長崎日大の硬軟織り混ぜた攻撃は「敵ながらあっぱれ」だった。

第2表を見れば分かるように、安打数では智辯が11で長崎は7、残塁は智辯が9で長崎は3と、智辯が押し気味の試合だったことはたしかだ。しかし好機にボール打ちが目立ったこと、5回のチャンスにスクイズせずに強行策が失敗したことなどが裏目に出た試合だったと言えよう。

長崎日大	1	1	3	0	0	0	0	0	0	5
智辯学園	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3

	安	振	球	盗	犠	失	併	残
長崎日大	7	5	4	3	4	3	2	3
智辯学園	11	4	1	2	2	0	1	9

メンバー

部長 和泉 健守
 監督 上村 恭生
 (投) 橋本 一博
 (捕) 井上 辰男
 (一) 西岡 誠一
 (二) 森木 厚詞
 (三) 中尾 勝人
 (遊) 福井 敬治
 (左) 谷口 育広
 (中) 木谷 幸一郎
 (右) 田中 章夫

打 西岡 秀則
 後藤 善也
 小林 伸語
 石倉 正博
 清水 孝行
 中山 哲寛

栄光の歴史 (各年度の県大会以上の戦績)

◆ 40年

秋 1 回戦 智辯学園 0 - 6 大宇陀

◆ 41年

春 1 回戦 智辯学園 4 - 1 畝傍

2 回戦 智辯学園 0 - 3 奈良工業

◆ 42年

春 1 回戦 智辯学園 12 - 1 女子大付属 (5 回コールド)

2 回戦 智辯学園 3 - 6 天理

夏 1 回戦 智辯学園 9 - 0 女子大付属 (7 回コールド)

2 回戦 智辯学園 1 - 6 郡山

秋 1 回戦 智辯学園 1 - 0 郡山農業

2 回戦 智辯学園 3 - 7 吉野工業

◆ 43年

春 1 回戦 智辯学園 15 - 0 帝塚山 (7 回コールド)

2 回戦 智辯学園 4 - 2 吉野

準々決勝 智辯学園 3 - 0 桜井商業

準決勝 智辯学園 6 - 1 郡山

決勝 智辯学園 2 - 13 御所工業

夏 1 回戦 智辯学園 11 - 0 王寺工業 (5 回コールド)

2 回戦 智辯学園 4 - 1 正強

準々決勝 智辯学園 5 - 2 吉野工業

準決勝 智辯学園 6 - 1 高田商業

決勝 智辯学園 5 - 1 郡山

夏 第 50 回 全国高等学校野球選手権大会

1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 6 - 0 前橋工業

3 回戦 智辯学園 2 - 7 秋田市立

秋 1 回戦 智辯学園 2 - 1 大淀

2 回戦 智辯学園 3 - 8 高田商業

◆ 44年

春 1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 1 - 2 奈良工業

夏 1 回戦 智辯学園 4 - 1 高田

2 回戦 智辯学園 0 - 1 郡山農業

秋 1 回戦 智辯学園 1 - 8 奈良工業

◆ 45年

春 1 回戦 智辯学園 11 - 1 五条 (5 回コールド)

2 回戦	智辯学園 11 - 4 一条 (7 回コールド)
準々決勝	智辯学園 3 - 1 郡山農業
準決勝	智辯学園 0 - 5 郡山
夏 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 1 - 0 添上
準々決勝	智辯学園 3 - 5 御所工業
秋 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 5 - 1 天理
準々決勝	智辯学園 2 - 0 畝傍
決勝リーグ	
第 1 戦	智辯学園 7 - 5 田原本農業
第 2 戦	智辯学園 2 - 9 郡山
第 3 戦	智辯学園 2 - 2 一条
(以上の結果、優勝は郡山、2 位一条、3 位智辯学園)	

◆ 4 6 年

春 1 回戦	智辯学園 7 - 0 奈良高専 (7 回コールド)
2 回戦	智辯学園 2 - 1 一条
準々決勝	智辯学園 10 - 0 御所工業 (6 回コールド)
準決勝	智辯学園 8 - 0 高田商業
決勝	智辯学園 2 - 3 郡山
春 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 0 - 9 P L 学園
夏 1 回戦	智辯学園 7 - 1 一条
2 回戦	智辯学園 5 - 0 正強
準々決勝	智辯学園 5 - 0 高田商業
準決勝	智辯学園 3 - 2 御所工業
決勝	智辯学園 2 - 3 郡山
秋 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 7 - 0 高田 (7 回コールド)
準々決勝	智辯学園 10 - 0 五条 (5 回コールド)
決勝リーグ	
第 1 戦	智辯学園 1 - 0 田原本農業
第 2 戦	智辯学園 1 - 1 奈良工業
第 3 戦	智辯学園 4 - 5 天理
(以上の結果、優勝奈良工業、2 位天理、3 位智辯学園)	

◆ 4 7 年

春 1 回戦	智辯学園 5 - 0 帝塚山
2 回戦	智辯学園 10 - 2 高田商業 (7 回コールド)

準々決勝	智辯学園 4 - 0 添上
準決勝	智辯学園 6 - 0 御所工業
決勝	智辯学園 7 - 2 天理
春 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 4 - 1 立命館
準決勝	智辯学園 6 - 5 近大付
決勝	智辯学園 9 - 8 滝川
夏 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 4 - 5 郡山
秋 1 回戦	智辯学園 2 - 0 添上
2 回戦	智辯学園 2 - 0 奈良商業
準々決勝	智辯学園 0 - 7 天理 (7 回コールド)

◆ 48 年

春 1 回戦	智辯学園 0 - 1 添上
夏 1 回戦	智辯学園 2 - 4 御所工業
秋 1 回戦	智辯学園 10 - 0 生駒 (6 回コールド)
2 回戦	智辯学園 5 - 0 田原本農業
準々決勝	智辯学園 3 - 0 郡山
準決勝	智辯学園 5 - 4 御所工業
決勝	智辯学園 3 - 4 天理
敗者復活戦	智辯学園 1 - 3 御所工業
(以上の結果、優勝天理、2 位御所工業、3 位智辯学園)	

◆ 49 年

春 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 3 - 2 奈良工業
準々決勝	智辯学園 9 - 2 女子大付属 (7 回コールド)
準決勝	智辯学園 0 - 1 天理
夏 1 回戦	智辯学園 7 - 0 正強 (8 回コールド)
2 回戦	智辯学園 2 - 4 郡山
秋 1 回戦	智辯学園 17 - 0 橿原学院 (5 回コールド)
2 回戦	智辯学園 10 - 0 田原本農業 (5 回コールド)
準々決勝	智辯学園 2 - 4 天理

◆ 50 年

春 1 回戦	智辯学園 10 - 0 大淀 (5 回コールド)
2 回戦	智辯学園 1 - 2 天理
夏 1 回戦	智辯学園 7 - 0 御所東 (8 回コールド)
2 回戦	智辯学園 1 - 0 奈良商業
3 回戦	智辯学園 1 - 0 奈良

準々決勝	智辯学園 1 - 0 奈良工業
準決勝	智辯学園 5 - 0 添上
決勝	智辯学園 1 - 3 天理
秋 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 8 - 0 桜井 (7 回コールド)
3 回戦	智辯学園 1 - 0 奈良
準々決勝	智辯学園 3 - 0 添上
準決勝	智辯学園 1 - 2 天理
敗者復活	
1 回戦	智辯学園 2 - 0 奈良商業
2 回戦	智辯学園 4 - 0 桜井商業
(優勝天理、2 位智辯学園は近畿大会出場)	
秋 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 3 - 0 村野工業
2 回戦	智辯学園 3 - 6 北陽

◆ 5 1 年

春 第 4 8 回選抜高等学校野球大会	
1 回戦	智辯学園 5 - 0 札幌商業
2 回戦	智辯学園 4 - 3 岡崎工業
準々決勝	智辯学園 3 - 11 東洋大姫路
春 1 回戦	智辯学園 5 - 0 添上
2 回戦	智辯学園 8 - 0 橿原学院 (7 回コールド)
準々決勝	智辯学園 11 - 0 郡山農業 (5 回コールド)
準決勝	智辯学園 15 - 0 奈良商業
決勝	智辯学園 1 - 3 天理
夏 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 8 - 0 畝傍
3 回戦	智辯学園 14 - 0 高田商業 (5 回コールド)
準々決勝	智辯学園 3 - 1 御所工業
準決勝	智辯学園 5 - 0 奈良商業
決勝	智辯学園 1 - 1 天理
(再試合)	智辯学園 0 - 2 天理
秋 1 回戦	不戦勝
2 回戦	智辯学園 9 - 0 生駒
3 回戦	智辯学園 13 - 3 奈良 (6 回コールド)
準々決勝	智辯学園 10 - 0 正強 (5 回コールド)
準決勝	智辯学園 4 - 3 郡山
決勝	智辯学園 4 - 2 天理

(智辯学園、天理は近畿大会出場)

秋 近畿大会

1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 6 - 0 県和歌山商業

準決勝 智辯学園 2 - 4 滝川

◆ 5 2 年

春 第 4 9 回選抜高等学校野球大会

1 回戦 智辯学園 4 - 2 土浦日大

2 回戦 智辯学園 4 - 1 銚子商業

準々決勝 智辯学園 4 - 2 早稲田実業

準決勝 智辯学園 0 - 2 箕島

春 1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 4 - 2 帝塚山

3 回戦 智辯学園 9 - 1 生駒 (7 回コールド)

準々決勝 智辯学園 1 - 2 郡山

夏 1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 9 - 0 王寺工業 (7 回コールド)

3 回戦 智辯学園 9 - 0 吉野工業 (5 回コールド)

準々決勝 智辯学園 3 - 0 天理

準決勝 智辯学園 3 - 0 高田

決勝 智辯学園 11 - 0 桜井

夏 紀和大会 (紀和大会はこの年で廃止)

決勝 智辯学園 4 - 1 和歌山県立田辺

夏 第 5 9 回全国高校野球選手権大会

1 回戦 智辯学園 2 - 1 星陵

2 回戦 智辯学園 12 - 0 川口工業

3 回戦 智辯学園 0 - 4 今治西

秋 1 回戦 不戦勝

2 回戦 智辯学園 5 - 3 畝傍

3 回戦 智辯学園 3 - 5 桜井商業

◆ 5 3 年

春 1 回戦 智辯学園 10 - 0 高田 (6 回コールド)

2 回戦 智辯学園 4 - 1 御所工業

準々決勝 智辯学園 1 - 5 天理

夏 1 回戦 智辯学園 9 - 0 奈良 (7 回コールド)

2 回戦 智辯学園 13 - 0 西の京 (5 回コールド)

3 回戦 智辯学園 6 - 0 城内

準々決勝 智辯学園 1 - 0 橿原学院

	準決勝	智辯学園 1 - 5 天理
秋	1 回戦	不戦勝
	2 回戦	智辯学園 8 - 4 桜井商業
	3 回戦	智辯学園 7 - 2 広陵
	準々決勝	智辯学園 5 - 1 高田商業
	準決勝	智辯学園 2 - 1 郡山
	決勝	智辯学園 0 - 4 天理

(敗者復活戦の結果優勝天理、2 位郡山、3 位智辯学園)

◆ 5 4 年

春	1 回戦	智辯学園 6 - 4 五条
	2 回戦	智辯学園 7 - 0 添上
	3 回戦	智辯学園 4 - 1 郡山
	準々決勝	智辯学園 4 - 3 奈良工業
	準決勝	智辯学園 4 - 3 桜井
	決勝	智辯学園 2 - 5 天理
	(近畿大会には天理のみ出場)	
夏	1 回戦	智辯学園 4 - 0 城内
	2 回戦	智辯学園 9 - 0 女子大付 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 5 - 0 高田
	準々決勝	智辯学園 10 - 0 榛原 (6 回コールド)
	準決勝	智辯学園 3 - 0 北大和
	決勝	智辯学園 1 - 11 天理
秋	1 回戦	智辯学園 13 - 0 大淀 (8 回コールド)
	2 回戦	智辯学園 7 - 0 郡山 (7 回コールド)
	準々決勝	智辯学園 10 - 0 正強 (5 回コールド)
	準決勝	智辯学園 7 - 4 桜井商業
	決勝	智辯学園 6 - 1 高田商業
秋	近畿大会	
	1 回戦	智辯学園 4 - 7 箕島

◆ 5 5 年

春	1 回戦	智辯学園 8 - 0 奈良 (8 回コールド)
	2 回戦	智辯学園 0 - 2 奈良工業
夏	1 回戦	智辯学園 5 - 0 斑鳩
	2 回戦	智辯学園 9 - 0 城内
	3 回戦	智辯学園 8 - 4 桜井商業
	準々決勝	智辯学園 4 - 0 二階堂
	準決勝	智辯学園 1 - 4 広陵
秋	1 回戦 シード	

2 回戦	智辯学園 5 - 2 榛原
3 回戦	智辯学園 2 - 1 帝塚山
準々決勝	智辯学園 7 - 0 大淀
準決勝	智辯学園 3 - 2 郡山
決勝	智辯学園 0 - 7 天理
秋 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 2 - 3 東山

◆ 5 6 年

春 1 回戦	智辯学園 13 - 0 帝塚山 (5 回コールド)
2 回戦	智辯学園 2 - 1 御所工業
3 回戦	智辯学園 7 - 0 田原本農業 (8 回コールド)
準々決勝	智辯学園 7 - 1 西の京
準決勝	智辯学園 2 - 0 高田
決勝	智辯学園 4 - 3 奈良工業
春 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 3 - 10 上宮
夏 1 回戦	智辯学園 12 - 0 奈良 (5 回コールド)
2 回戦	智辯学園 8 - 1 大淀 (7 回コールド)
3 回戦	智辯学園 2 - 1 高田
準々決勝	智辯学園 8 - 0 橿原 (7 回コールド)
準決勝	智辯学園 1 - 0 広陵
決勝	智辯学園 3 - 2 畝傍
夏 第 6 3 回全国高校野球選手権大会	
1 回戦	智辯学園 1 - 6 岐阜南
秋 1 回戦	智辯学園 1 - 0 広陵
2 回戦	智辯学園 3 - 1 添上
準々決勝	智辯学園 5 - 1 奈良
準決勝	智辯学園 2 - 0 桜井商業
決勝	智辯学園 1 - 0 郡山
秋 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 1 - 5 P L 学園

◆ 5 7 年

春 1 回戦	智辯学園 0 - 2 女子大付
夏 1 回戦	シード
2 回戦	智辯学園 8 - 0 平城 (7 回コールド)
3 回戦	智辯学園 6 - 2 橿原
準々決勝	智辯学園 9 - 2 二階堂 (7 回コールド)
準決勝	智辯学園 14 - 4 御所工業

	決勝	智辯学園 5 - 0 郡山
夏	第 6 4 回 全国高校野球選手権大会	
	1 回戦	智辯学園 2 - 3 法政二
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 8 - 0 奈良高専 (8 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 8 - 3 畝傍
	準々決勝	智辯学園 8 - 0 正強 (8 回コールド)
	準決勝	智辯学園 6 - 3 二階堂
	決勝	智辯学園 2 - 1 広陵
秋	近畿大会	
	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 3 - 4 立命館

◆ 5 8 年

春	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 11 - 1 御所 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 2 - 0 広陵
	準々決勝	智辯学園 2 - 1 天理
	準決勝	智辯学園 4 - 0 一条
	決勝	智辯学園 5 - 6 生駒
	(近畿大会には、生駒のみ出場)	
夏	1 回戦	智辯学園 0 - 1 北大和
	(延長 11 回、さよなら負け)	
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 10 - 0 大宇陀 (5 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 9 - 5 一条
	準々決勝	智辯学園 2 - 0 生駒
	準決勝	智辯学園 5 - 4 奈良工業
	決勝	智辯学園 7 - 3 畝傍
秋	近畿大会	
	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 7 - 2 明石商業
	準々決勝	智辯学園 1 - 1 P L 学園
	(再試合)	
	準々決勝	智辯学園 4 - 7 P L 学園

◆ 5 9 年

春	第 5 6 回 選抜高校野球大会	
	1 回戦	智辯学園 3 - 9 拓大紅陵
春	1 回戦	智辯学園 24 - 0 山辺 (5 回コールド)

2 回戦	智辯学園 13 - 0 北大和 (5 回コールド)
3 回戦	智辯学園 9 - 4 斑鳩
準々決勝	智辯学園 4 - 3 高田
準決勝	智辯学園 13 - 3 天理
決勝	智辯学園 3 - 1 香芝
春 近畿大会	
1 回戦	智辯学園 0 - 7 新宮 (7 回コールド)
夏 1 回戦	シード
2 回戦	智辯学園 5 - 2 生駒
3 回戦	智辯学園 11 - 4 平城 (7 回コールド)
準々決勝	智辯学園 6 - 0 大淀
準決勝	智辯学園 8 - 3 天理
決勝	智辯学園 6 - 0 橿原
夏 第 6 6 回 全国高校野球選手権大会	
1 回戦	智辯学園 8 - 9 浜松商業
秋 若草国体	
準々決勝	智辯学園 3 - 1 北海
準決勝	智辯学園 3 - 5 取手二
秋 1 回戦	智辯学園 3 - 0 一条
2 回戦	智辯学園 10 - 0 奈良 (5 回コールド)
3 回戦	智辯学園 16 - 0 橿原学院 (5 回コールド)
準々決勝	智辯学園 1 - 0 正強
準決勝	智辯学園 2 - 3 郡山
敗者復活	智辯学園 5 - 7 広陵 (延長 1 4 回)

◆ 6 0 年

春 1 回戦	智辯学園 7 - 0 高田東 (7 回コールド)
2 回戦	智辯学園 10 - 1 奈良高専 (7 回コールド)
3 回戦	智辯学園 10 - 0 御所工業 (5 回コールド)
準々決勝	智辯学園 10 - 0 十津川 (6 回コールド)
準決勝	智辯学園 5 - 0 広陵
決勝	智辯学園 5 - 8 天理
(近畿大会 出場は天理のみ)	
夏 1 回戦	シード
2 回戦	智辯学園 10 - 0 上牧 (5 回コールド)
3 回戦	智辯学園 10 - 0 御所工業 (6 回コールド)
準々決勝	智辯学園 9 - 2 郡山 (8 回コールド)
準決勝	智辯学園 8 - 2 大淀
決勝	智辯学園 9 - 8 天理

夏	第 6 7 回全国高校野球選手権大会	
	1 回戦	智辯学園 1 - 2 東京農大二 (延長 1 0 回さよなら負け)
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 11 - 1 十津川 (5 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 8 - 1 二階堂 (7 回コールド)
	準々決勝	智辯学園 5 - 2 桜井商業
	準決勝	智辯学園 7 - 3 広陵
	決勝	智辯学園 4 - 3 天理 (延長 1 1 回)
秋	近畿大会	
	1 回戦	シード
	準々決勝	智辯学園 2 - 0 御坊商工
	準決勝	智辯学園 6 - 7 上宮 (延長 1 8 回)

◆ 6 1 年

春	第 5 8 回選抜高校野球大会	
	1 回戦	智辯学園 0 - 2 函館有斗
春	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 8 - 1 一条 (8 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 4 - 6 天理
夏	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 8 - 0 吉野 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 2 - 1 片桐
	準々決勝	智辯学園 2 - 5 斑鳩
秋	1 回戦	智辯学園 13 - 0 高田東 (5 回コールド)
	2 回戦	智辯学園 4 - 1 広陵
	3 回戦	智辯学園 5 - 4 北大和
	準々決勝	智辯学園 4 - 3 天理
	準決勝	智辯学園 8 - 3 志貴
	決勝	智辯学園 0 - 1 大淀
秋	近畿大会	
	1 回戦	智辯学園 2 - 3 伊香

◆ 6 2 年

春

夏	1 回戦	智辯学園 7 - 0 志貴 (7 回コールド)
	2 回戦	智辯学園 4 - 1 片桐

	3 回戦	智辯学園 4 - 5 五条
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 5 - 2 信貴ヶ丘
	3 回戦	智辯学園 4 - 3 片桐
	準々決勝	智辯学園 4 - 1 志貴
	準決勝	智辯学園 3 - 2 郡山
	決勝	智辯学園 2 - 7 天理
秋	近畿大会	
	1 回戦	智辯学園 2 - 5 野洲

◆ 6 3 年

春	1 回戦	智辯学園 11 - 1 高田 (6 回コールド)
	2 回戦	智辯学園 9 - 0 室生 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 2 - 3 桜井商業
夏	1 回戦	智辯学園 6 - 0 上牧
	2 回戦	智辯学園 5 - 0 西大和 (8 回降雨コールド)
	3 回戦	智辯学園 2 - 3 郡山
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 11 - 0 御所東 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 2 - 7 御所工業(?)

◆ 平成 1 年

夏	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 9 - 1 大淀 (7 回コールド)
	3 回戦	智辯学園 11 - 4 二階堂 (7 回コールド)
	準々決勝	智辯学園 15 - 3 吉野
	準決勝	智辯学園 5 - 2 天理
	決勝	智辯学園 5 - 4 斑鳩
夏	第 7 1 回全国高校野球選手権大会	
	1 回戦	智辯学園 6 - 1 新潟南
	2 回戦	智辯学園 6 - 2 東京農大二
	3 回戦	智辯学園 0 - 2 海星 (三重)
秋	1 回戦	シード
	2 回戦	智辯学園 3 - 2 志貴 (延長 1 1 回)
	3 回戦	智辯学園 2 - 1 西大和
	準々決勝	智辯学園 7 - 5 御所工業
	準決勝	智辯学園 2 - 1 正強
	決勝	智辯学園 8 - 5 天理
秋	近畿大会	
	1 回戦	シード

準々決勝 智辯学園 3 - 2 北嵯峨 (延長 10 回)
 準決勝 智辯学園 1 - 3 近大付属

◆平成 2 年

春 第 62 回選抜高等学校野球大会

1 回戦 智辯学園 0 - 1 東北

春 1 回戦 シード

2 回戦 智辯学園 6 - 7 天理

(天理は 5 月 17 日、部員の暴行事件が発覚して日本高野連から警告処分を受けた。このため春季大会で、広陵は天理との決勝戦を行わず、優勝が決まった)

夏 1 回戦 智辯学園 10 - 2 奈良高専 (7 回コールド)

2 回戦 智辯学園 9 - 0 奈良商業 (7 回コールド)

3 回戦 智辯学園 6 - 4 斑鳩

準々決勝 智辯学園 14 - 0 北大和 (5 回コールド)

準決勝 智辯学園 3 - 4 天理

秋 1 回戦 シード

2 回戦 智辯学園 4 - 2 高田商業

3 回戦 智辯学園 3 - 5 郡山

◆平成 3 年

春 1 回戦 シード

2 回戦 智辯学園 10 - 1 桜井商業 (7 回コールド)

3 回戦 智辯学園 5 - 2 奈良商業

準々決勝 智辯学園 2 - 0 片桐

準決勝 智辯学園 5 - 14 天理

夏 1 回戦 智辯学園 3 - 7 志貴

秋 地区大会

1 回戦 智辯学園 8 - 0 樫原

2 回戦 智辯学園 9 - 0 大淀 (7 回コールド)

3 回戦 智辯学園 3 - 7 五條

秋 1 回戦 シード

2 回戦 智辯学園 14 - 3 樫原 (7 回コールド)

3 回戦 智辯学園 4 - 5 広陵

◆平成 4 年

春 1 回戦 智辯学園 9 - 0 榛原

2 回戦 智辯学園 11 - 0 御所 (6 回コールド)

3 回戦 智辯学園 5 - 0 郡山

準々決勝 智辯学園 9 - 2 香芝

準決勝 智辯学園 13 - 1 広陵

	決勝	智辯学園	6 - 5	天理
春	近畿大会			
	1 回戦	智辯学園	5 - 2	和歌山工業
	準決勝	智辯学園	3 - 4	比叡山
夏	1 回戦	シード		
	2 回戦	智辯学園	11 - 3	五條
	3 回戦	智辯学園	7 - 0	西ノ京
	準々決勝	智辯学園	6 - 3	耳成
	準決勝	智辯学園	8 - 5	桜井商業
	決勝	智辯学園	4 - 5	天理
秋	1 回戦	シード		
	2 回戦	智辯学園	7 - 0	御所工業 (8 回コールド)
	決勝	智辯学園	4 - 1	五條
秋	1 回戦	シード		
	2 回戦	智辯学園	9 - 4	城内
	3 回戦	智辯学園	9 - 2	平城
	準々決勝	智辯学園	5 - 4	斑鳩
	準決勝	智辯学園	7 - 3	天理
	決勝	智辯学園	2 - 5	五條
秋	近畿大会			
	1 回戦	智辯学園	4 - 7	東山 (京都)

◆平成 5 年

春	第 65 回選抜高校野球大会			
	1 回戦	智辯学園	3 - 5	長崎日大
春	1 回戦	シード		
	2 回戦	智辯学園	4 - 0	香芝
	3 回戦	智辯学園	9 - 5	桜井
	準々決勝	智辯学園	4 - 12	天理 (7 回コールド)
夏	1 回戦	智辯学園		

智辯学園野球部・年表

◆昭和40年

- ▽4月 野球同好会としてスタート。
- ▽9月 グラウンド完成。野球場開きで大淀と初の対外試合、
6－1で勝つ。野球部に昇格。藤田照清・部長、山本集・
監督就任。県高校野球連盟に加盟。
- ▽10月 県大会1回戦 智辯学園0－6大宇陀
- ▽12月 浪商と10日間の合宿練習を行い、2－1で勝つ。

◆昭和41年

- ▽3月 田原本農業との練習試合は3－3で引き分け。
- ▽5月 県大会2回戦 智辯学園0－3奈良工業
(山本監督の特訓を批判する新聞報道)
- ▽5月 藤田照清・部長、和泉健守・監督就任
- ▽6月 対外試合禁止1年間の処分を受ける。
- ▽10月 佐伯達夫・全国高校野球連盟会長が学校視察。

◆昭和42年

- ▽3月 対外試合禁止処分を2か月短縮され、4月から対外試
合が許される。
- ▽5月 県大会復帰。2回戦 智辯学園3－6天理
- ▽7月 県大会2回戦 智辯学園1－6郡山
- ▽10月 県大会2回戦 智辯学園3－7吉野工業

◆昭和43年

- ▽5月 県大会決勝戦 智辯学園2－13御所工業
- ▽7月 県大会決勝戦 智辯学園5－1郡山で初優勝
- ▽8月 第50回全国高校野球選手権大会出場①
1回戦シード
2回戦 智辯学園6－0前橋工業
3回戦 智辯学園2－7秋田市立

◆昭和44年

- ▽5月 県大会2回戦 智辯学園1－2奈良工業
- ▽7月 県大会2回戦 智辯学園0－1田原本農業
- ▽10月 県大会1回戦 智辯学園1－8奈良工業

◆昭和45年

▽4月	和泉健守・部長、高嶋 仁・監督就任	
▽5月	県大会準決勝	智辯学園0－5郡山
▽7月	県大会準々決勝	智辯学園3－5御所工業
▽10月	県大会準々決勝	智辯学園2－0畝傍
▽10月	同決勝リーグ3回戦	智辯学園2－2一条（3位決定）

◆昭和46年

▽5月	県大会決勝戦	智辯学園2－3郡山
▽6月	近畿大会出場 1回戦	智辯学園0－9 P L 学園
▽7月	県大会決勝戦	智辯学園2－3郡山
▽10月	県大会決勝リーグで3位	

◆昭和47年

▽5月	県大会決勝戦	智辯学園7－2天理で優勝
▽6月	近畿大会出場 決勝戦	智辯学園9－8滝川で優勝
▽7月	県大会2回戦	智辯学園4－5郡山で敗退

◆昭和48年

▽春夏	いずれも1回戦で敗退	
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園3－4天理

◆昭和49年

▽5月	県大会準決勝	智辯学園0－1天理
▽10月	県大会準々決勝	智辯学園2－4天理

◆昭和50年

▽7月	県大会決勝戦	智辯学園1－3天理
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園1－2天理
▽11月	近畿大会出場 2回戦	智辯学園3－6北陽

◆昭和51年

▽3月	第48回選抜高校野球大会出場① 1回戦	智辯学園5－0札幌商業
	2回戦	智辯学園4－3岡崎工業

	準々決勝	智辯学園 3 - 11 東洋大姫路
▽ 5 月	県大会決勝戦	智辯学園 1 - 3 天理
▽ 7 月	県大会決勝戦	智辯学園 1 - 1 天理
	再試合	智辯学園 0 - 2 天理
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 4 - 2 天理で優勝
▽ 11 月	近畿大会	
	準決勝	智辯学園 2 - 4 滝川

◆昭和 5 2 年

▽ 3 月	第 4 9 回選抜高校野球大会出場②	
	1 回戦	智辯学園 4 - 2 土浦日大
	2 回戦	智辯学園 4 - 1 銚子商業
	準々決勝	智辯学園 4 - 2 早稲田実業
	準決勝	智辯学園 0 - 2 箕島
▽ 7 月	県大会決勝戦	智辯学園 11 - 0 桜井で優勝
▽ 8 月	第 5 9 回全国高校野球選手権大会出場②	
	1 回戦	智辯学園 2 - 1 星陵
	2 回戦	智辯学園 12 - 0 川口工業
	準々決勝	智辯学園 0 - 4 今治西

◆昭和 5 3 年

▽ 4 月	藤田照清・部長、和泉健守・監督就任	
▽ 7 月	県大会準決勝	智辯学園 1 - 5 天理
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 0 - 4 天理
▽ 11 月	和泉健守・部長、寺下昌利・監督就任	

◆昭和 5 4 年

▽ 5 月	県大会決勝戦	智辯学園 2 - 5 天理
▽ 7 月	県大会決勝戦	智辯学園 1 - 11 天理
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 6 - 1 高田商業
▽ 11 月	近畿大会出場	
	1 回戦	智辯学園 4 - 7 箕島

◆昭和 5 5 年

▽ 5 月	県大会 2 回戦	智辯学園 0 - 2 奈良工業
▽ 7 月	県大会準決勝	智辯学園 1 - 4 広陵
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 0 - 7 天理
▽ 11 月	近畿大会出場	

1 回戦

智辯学園 2 - 3 東山

◆昭和 5 6 年

▽ 5 月	県大会決勝戦	智辯学園 4 - 3 奈良工業で優勝
▽ 6 月	近畿大会出場 1 回戦	智辯学園 3 - 10 上宮
▽ 7 月	県大会決勝戦	智辯学園 3 - 2 畝傍で優勝
▽ 8 月	第 6 3 回全国高校野球選手権大会出場③ 1 回戦	智辯学園 1 - 6 岐阜南
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 1 - 0 郡山で優勝
▽ 11 月	近畿大会出場 1 回戦	智辯学園 1 - 5 P L 学園

◆昭和 5 7 年

▽ 4 月	和泉健守・部長、寺下昌利・監督、上村恭生コーチ就任	
▽ 5 月	県大会 1 回戦	智辯学園 0 - 2 女子大付属
▽ 7 月	県大会決勝戦	智辯学園 5 - 0 郡山で優勝
▽ 8 月	第 6 4 回全国高校野球選手権大会出場④ 1 回戦	智辯学園 2 - 3 法政二
▽ 10 月	県大会決決勝戦	智辯学園 2 - 1 広陵
▽ 11 月	近畿大会出場 2 回戦	智辯学園 3 - 4 立命館

◆昭和 5 8 年

▽ 5 月	県大会決勝戦	智辯学園 5 - 6 生駒
▽ 6 月	上村恭生・部長、和泉健守・顧問、寺下昌利・監督就任	
▽ 7 月	県大会 1 回戦	智辯学園 0 - 1 北大和 (延長 11 回)
▽ 10 月	県大会決勝戦	智辯学園 7 - 3 畝傍で優勝
▽ 11 月	近畿大会出場 準々決勝 再試合	智辯学園 1 - 1 P L 学園 智辯学園 4 - 7 P L 学園

◆昭和 5 9 年

▽ 3 月	第 5 6 回選抜高校野球大会出場③ 1 回戦	智辯学園 3 - 9 拓大紅陵
▽ 5 月	県大会決勝戦	智辯学園 3 - 1 香芝で優勝
▽ 6 月	近畿大会出場 1 回戦	智辯学園 0 - 7 新宮

▽7月	県大会決勝戦	智辯学園 6 - 0 樫原で優勝
▽8月	第66回全国高校野球選手権大会出場⑤	
	1回戦	智辯学園 8 - 9 浜松商業
▽9月	若草国体出場	
	準決勝	智辯学園 3 - 5 取手二
▽10月	県大会準決勝	智辯学園 2 - 3 郡山

◆昭和60年

▽5月	県大会決勝戦	智辯学園 5 - 8 天理
▽7月	県大会決勝戦	智辯学園 9 - 8 天理で優勝
▽8月	第67回全国高校野球選手権大会出場⑥	
	1回戦	智辯学園 1 - 2 東農二 (延長10回)
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園 4 - 3 天理で優勝
▽11月	近畿大会出場	
	準決勝	智辯学園 6 - 7 上宮

◆昭和61年

▽3月	第58回選抜高校野球大会出場④	
	1回戦	智辯学園 0 - 2 函館有斗
▽5月	県大会3回戦	智辯学園 4 - 8 天理
▽7月	県大会準々決勝	智辯学園 2 - 5 斑鳩
▽9月	和泉健守・部長、上村恭生・監督就任	
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園 0 - 1 大淀
▽11月	近畿大会出場	
	1回戦	智辯学園 2 - 3 伊香

◆昭和62年

▽5月	不明 (資料なし)	
▽7月	県大会3回戦	智辯学園 4 - 5 五條
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園 2 - 7 天理
▽11月	近畿大会出場	
	1回戦	智辯学園 2 - 5 野州

◆昭和63年

▽5月	県大会3回戦	智辯学園 2 - 3 桜井商業
▽7月	県大会3回戦	智辯学園 2 - 3 郡山
▽10月	県大会	
	3回戦	智辯学園 2 - 7 御所工業

◆平成1年

▽5月	県大会 不明（資料なし）	
▽7月	県大会決勝戦	智辯学園5－4斑鳩で優勝
▽8月	第71回全国高校野球選手権大会出場⑦	
	1回戦	智辯学園6－1新潟南
	2回戦	智辯学園6－2東農二
	3回戦	智辯学園0－2海星（三重）
▽10月	県大会決勝戦	智辯学園8－5天理で優勝
▽11月	近畿大会出場 準決勝	智辯学園1－3近大付

◆平成2年

▽3月	第62回全国選抜高校野球大会出場⑤	
	1回戦	智辯学園0－1東北
▽5月	県大会2回戦 （天理は5月17日、部員の暴行事件が発覚、日本高校野球連盟から警告処分を受け、広陵は決勝戦を行わずに優勝）	智辯学園6－7天理
▽7月	県大会準決勝	智辯学園3－4天理
▽10月	県大会3回戦	智辯学園3－5郡山

◆平成3年

▽5月	県大会準決勝	智辯学園5－14天理
▽7月	県大会1回戦	智辯学園3－7志貴
▽10月	県大会3回戦	智辯学園3－7五條
▽11月	県大会3回戦	智辯学園4－5広陵

◆平成4年

▽5月	県大会決勝戦	智辯学園6－5天理
▽5月	近畿大会出場 1回戦 2回戦	智辯学園5－2和歌山工業 智辯学園3－4比叡山
▽7月	県大会決勝戦	智辯学園4－5天理
▽11月	県大会決勝戦	智辯学園2－5五條
▽11月	近畿大会出場 1回戦	智辯学園4－7東山（京都）

◆平成5年

▽3月	第65回選抜高校野球大会出場⑥	
-----	-----------------	--

▽ 5 月 1 回戦 県大会準々決勝
▽ 7 月 県大会

智辯学園 3 - 5 長崎日大
智辯学園 4 - 12 天理
智辯学園

全国大会・近畿大会の戦績

◆近畿高校野球大会

▽46年春	1回戦	智辯学園	0 - 9	P L 学園
▽47年春	1回戦	智辯学園	4 - 1	立命館
	準決勝	智辯学園	6 - 5	近大付
	優勝	智辯学園	9 - 8	滝川
▽50年秋	1回戦	智辯学園	3 - 0	村野工業
	2回戦	智辯学園	3 - 6	北陽
▽51年秋	1回戦	不戦勝		
	2回戦	智辯学園	6 - 0	県立和歌山商業
	3回戦	智辯学園	2 - 3	滝川
▽52年夏 (紀和大会)		智辯学園	4 - 1	和歌山県立田辺
▽54年秋	1回戦	智辯学園	4 - 7	箕島
▽55年秋	1回戦	智辯学園	2 - 3	東山
▽56年春	1回戦	智辯学園	3 - 10	上宮 (8回コールド)
▽56年秋	1回戦	智辯学園	1 - 5	P L 学園
▽57年秋	1回戦	シード		
	2回戦	智辯学園	3 - 4	立命館
▽58年秋	1回戦	シード		
	2回戦	智辯学園	7 - 2	明石
	準々決勝	智辯学園	1 - 1	P L 学園 (引分け)
	再試合	智辯学園	4 - 7	P L 学園
▽59年春	1回戦	智辯学園	0 - 7	新宮
▽60年秋	1回戦	シード		
	準々決勝	智辯学園	2 - 0	御坊商工
	準決勝	智辯学園	6 - 7	上宮 (延長18回)
▽61年秋	1回戦	智辯学園	2 - 3	伊香
▽62年秋	1回戦	智辯学園	2 - 5	野洲
▽平成1秋	1回戦	シード		
	準々決勝	智辯学園	3 - 2	北嵯峨 (延長10回)
	準決勝	智辯学園	1 - 3	近大付属
▽平成4春	1回戦	智辯学園	5 - 2	和歌山工業
	準決勝	智辯学園	3 - 4	比叡山
▽平成4秋	1回戦	智辯学園	4 - 7	東山

◆若草国体

▽59年秋

1回戦

シード

準々決勝

智辯学園

3 - 1

北海

準決勝

智辯学園

1 - 3

取手二

◆選抜高等学校野球大会

▽昭和51年(第48回)

1回戦	智辯学園	5-0	札幌商業
2回戦	智辯学園	4-3	岡崎工業
準々決勝	智辯学園	3-11	東洋大姫路
(東洋大姫路は、今大会ベスト4)			

▽昭和52年(第49回)

1回戦	智辯学園	4-2	土浦日大
2回戦	智辯学園	4-1	銚子商業
準々決勝	智辯学園	4-2	早稲田実業
準決勝	智辯学園	0-2	箕島
(箕島は今大会優勝)			

▽昭和59年(第56回)

1回戦	智辯学園	3-9	拓大紅陵
-----	------	-----	------

▽昭和61年(第58回)

1回戦	智辯学園	0-2	函館有斗
-----	------	-----	------

▽平成2年(第62回)

1回戦	智辯学園	0-1	東北
-----	------	-----	----

▽平成5年(第65回)

1回戦	智辯学園	3-5	長崎日大
-----	------	-----	------

◆全国高等学校野球選手権大会

▽昭和43年(第50回)

1回戦	シード		
2回戦	智辯学園	6-0	前橋工業
3回戦	智辯学園	2-7	秋田市立

▽昭和52年(第59回)

紀和大会(紀和大会はこの年で最後、優勝して甲子園へ)

智辯学園	4-1	県立田辺
------	-----	------

甲子園大会

1回戦	智辯学園	2-1	星陵
2回戦	智辯学園	12-0	川口工業
3回戦	智辯学園	0-4	今治西

▽昭和56年(第63回)

1回戦	智辯学園	1-6	岐阜南
-----	------	-----	-----

▽昭和57年(第64回)

1回戦	智辯学園	2-3	法政二
-----	------	-----	-----

▽昭和59年(第66回)

1 回戦 智辯学園 8 - 9 浜松商業
▽昭和 60 年 (第 67 回)
1 回戦 智辯学園 1 - 2 東京農大二
▽平成 1 年 (第 71 回)
1 回戦 智辯学園 6 - 1 新潟南
2 回戦 智辯学園 6 - 2 東京農大二
3 回戦 智辯学園 0 - 2 三重・海星

▽